

# Intel® Active Management Technology v4.0 管理者ガイド

## 概要

[製品概要](#)  
[動作モード](#)  
[セットアップおよび設定の概要](#)  
[プロビジョニングの方法](#)

## メニューおよびデフォルト

[MEBx 設定の概要](#)  
[ME Configuration \(ME 設定\) メニュー](#)  
[AMT Configuration \(AMT 設定\) メニュー](#)  
[MEBx のデフォルト](#)

## セットアップおよび設定

[設定方法の概要](#)  
[設定サービス](#)  
[MEBx インタフェース \(Enterprise \(エンタープライズ\) モード\)](#)  
[MEBx インタフェース \(SMB モード\)](#)  
[システムの展開](#)  
[オペレーティングシステムのドライバ](#)

## 管理

[Intel AMT Web GUI](#)

## AMT リダイレクション (SOL/IDE-R)

[AMT リダイレクションの概要](#)

## トラブルシューティング

[トラブルシューティング](#)

---

DELL™ n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合、この文書の Microsoft® Windows® オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

---

本書の内容は予告なく変更されることがあります。  
© 2008 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書で使用される商標：Dell、Latitude、および DELL のロゴは、Dell Inc. の商標です。Intel は、Intel Corporation の米国およびその他の国々における登録商標です。Microsoft および Windows は米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

本書では、上記記載以外の商標および会社名が使用されている場合があります。それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

2008 年 8 月 Rev.A00

## 概要

Intel® Active Management Technology (Intel AMT) により、企業はネットワークコンピュータを次の方法で容易に管理できます。

- コンピュータの電源が入っているかどうかに関わらず、ネットワーク上のコンピュータ資産を検出 – Intel AMT は、不揮発性システムメモリに保存されている情報を使用してコンピュータにアクセスします。このため、コンピュータの電源が切断されている場合でもアクセス可能です（帯域外または OOB アクセスとも呼ばれます）。
- オペレーティングシステムに障害が発生した後も、リモートでシステムを修復 – ソフトウェアまたはオペレーティングシステムに不具合が発生した場合、修復を目的として Intel AMT を使用し、コンピュータにリモートでアクセスできます。また IT 管理者は、Intel AMT の帯域外イベントのログおよび警告機能を使用して、コンピュータシステムの問題を容易に検出することもできます。
- ネットワーク全体でソフトウェアとウィルス保護を最新の状態に保ちながら、侵入しようとする脅威からネットワークを保護。

## ソフトウェアサポート

一部の独立系ソフトウェアベンダー (ISV) の中には、Intel AMT の機能と互換性のあるソフトウェアパッケージを構築しています。これにより、企業内でネットワークコンピュータ資産をリモート管理することになった場合でも、IT 管理者は多数のオプションを使用できます。

## 機能と利点

Intel AMT	
機能	利点
帯域外 (OOB) アクセス	システム電源やオペレーティングシステムの状態に関係なく、プラットフォームをリモート管理できます。
リモートでのトラブルシューティングおよび回復	現場に出向く回数を大幅に削減し、IT テクニカルスタッフの効率を向上させます。
問題先取り型警告	ダウンタイムを短縮し、修復時間を最小限に抑えます。
ハードウェアおよびソフトウェア資産のリモートトラッキング	手作業による在庫トラッキングよりもスピードと精度を向上し、資産会計コストを削減します。
サードパーティ製不揮発性ストレージ	手作業による在庫トラッキングよりもスピードと精度を向上し、資産会計コストを削減します。

\* 本ページに記載の情報は [Intel](#) により提供されています。

Intel® Management Engine BIOS Extension (MEBx) は、オプションの ROM モジュールで、Intel から Dell™ へ Dell BIOS に含めて提供されています。MEBx は Dell コンピュータ向けにカスタマイズされています。

[目次に戻る](#)

## 動作モード

Intel® AMT は、Enterprise（エンタープライズ）または Small and Medium Business（中小企業）のいずれかの動作モードにセットアップできます（プロビジョニングモデルとも呼ばれます）。どちらのモードも動的および静的 IP ネットワークをサポートしています。

動的 IP ネットワーク（DHCP）を使用する場合、Intel AMT のホスト名とオペレーティングシステムのホスト名が一致していることが必要です。また、DHCP を使用するようオペレーティングシステムと Intel AMT の両方を設定する必要があります。

静的 IP ネットワークを使用する場合、Intel AMT の IP アドレスはオペレーティングシステムの IP アドレスと別であることが必要です。更に、Intel AMT のホスト名はオペレーティングシステムのホスト名と別であることが必要です。

- **Enterprise**（エンタープライズ）モード – 大企業向けのモードで、Transport Layer Security（トランスポート層セキュリティ、TLS）をサポートし、設定サービスを必要とする高度なネットワークモードです。IT 管理者は、Enterprise（エンタープライズ）モードを使用して Intel AMT をリモート管理向けに安全にセットアップおよび設定できます。Dell™ コンピュータの工場出荷時のデフォルトは、Enterprise（エンタープライズ）モードです。モードはセットアップおよび設定プロセス時に変更できます。
- **Small Medium Business**（SMB）（中小企業）モード – 簡略化された動作モードで、TLS はサポートせず、セットアップアプリケーションも必要ありません。SMB モードは、独立系ソフトウェアベンダー（ISV）による管理コンソールまたは暗号化 TLS を使用するためのネットワークおよびセキュリティインフラストラクチャを持たないユーザー向けのモードです。SMB モードでは、Intel AMT のセットアップおよび設定は Intel ME BIOS Extension（MEBx）を使用して手動で行います。このモードは、多くのインフラストラクチャを必要としないため最も容易に実装できますが、すべてのネットワークトラフィックが暗号化されるわけではないため安全性は最も低くなります。

Intel AMT Configuration（Intel AMT 設定）により、Intel AMT セットアップで対象とならないその他の Intel AMT オプション（Serial-Over-LAN（SOL）または IDE-Redirect（IDE-R）を有効するオプションなど）がセットアップされます。

設定段階で修正された設定値は、コンピュータの耐用期間中何度でも変更できます。コンピュータへの変更は、ローカルまたは管理コンソールを使用して行えます。

[目次に戻る](#)

## セットアップおよび設定の概要

Intel® AMT のセットアップおよび設定に関する重要な用語を以下に示します。

- セットアップおよび設定 — Intel AMT によって管理されるコンピュータに、リモート管理を可能にするためのユーザー名、パスワード、ネットワークパラメータを設定するプロセス。
- プロビジョニング — Intel AMT をセットアップして設定する操作。
- 設定サービス — Intel AMT のプロビジョニングを完了するためのサードパーティ製アプリケーション。
- **Intel AMT WebGUI** — 制限付きでリモートコンピュータの管理を行える Web ブラウザをベースとしたインターフェース。

Intel AMT を使用する前に、コンピュータでセットアップおよび設定を行う必要があります。Intel AMT セットアップでは、コンピュータを Intel AMT モードで使用する準備をして、ネットワーク接続を有効にします。このセットアップを実行するのは通常、コンピュータの耐用期間中 1 回だけです。Intel AMT が有効な場合は、ネットワーク上の管理ソフトウェアによる検出が可能です。

Intel AMT を Enterprise（エンタープライズ）モードでセットアップした後は、機能の設定をいつでも独自で開始できます。必要なすべてのネットワーク要素が使用可能になった時点で、コンピュータを電源とネットワークに接続すると、Intel AMT は自動的に設定を開始します。設定サービス（サードパーティ製アプリケーション）によって、このプロセスが完了されます。以上で Intel AMT はリモート管理を行う準備が整います。この設定には、通常 2～3 秒しかかかりません。Intel AMT セットアップおよび設定が完了した後は、お客様のビジネス環境に応じたテクノロジーを再設定できます。

Intel AMT を SMB モードでセットアップすると、コンピュータはネットワーク全体の設定を行いません。コンピュータは手動で設定し、これにより、Intel AMT Web GUI で動作する準備が完了します。

## Intel AMT のセットアップおよび設定の状態

Intel AMT のセットアップおよび設定操作は、プロビジョニングとも呼ばれます。Intel AMT 対応コンピュータは、次の 3 種類のセットアップおよび設定状態のいずれかの状態になっています。

- **factory-default**（工場出荷時）状態とは、全く設定されていない状態で、セキュリティ信用証明書がまだ設定されておらず、Intel AMT 機能を管理アプリケーションで使用できません。factory-default（工場出荷時）状態では、Intel AMT は工場出荷時の設定になっています。
- **setup**（セットアップ）状態とは、部分的に設定された状態で、Intel AMT に初期ネットワークとトランスポート層セキュリティ（TLS）情報（初期設定の管理者用パスワード、プロビジョニングパスフレーズ（PPS）、プロビジョニング ID（PID））が設定されています。Intel AMT のセットアップが完了すると、Intel AMT はエンタープライズ設定を設定サービスから受け取る準備が整います。
- **provisioned**（プロビジョン済み）状態とは、完全に設定済みの状態で、Intel Management Engine（ME）に電源オプションが設定されており、Intel AMT に、セキュリティ設定、証明書、Intel AMT 機能の起動設定といった設定が完了しています。Intel AMT の設定が完了すると、Intel AMT の機能は管理アプリケーションとやりとりを行う準備が整います。

## [目次に戻る](#)

Intel AMT のセットアップおよび設定操作は、プロビジョニングと呼ばれます。Enterprise（エンタープライズ）モードを使用したコンピュータのプロビジョニング方法は次の 2 通りあります。

- Legacy（レガシー）
- IT TLS-PSK

## Legacy（レガシー）

Transport Layer Security（トランスポート層セキュリティ、TLS）が必要な場合は、企業のネットワークから分離されたネットワーク上で、レガシー法による Intel AMT のセットアップおよび設定を行います。セットアップおよび設定用サーバー（SCS）は、TLS を設定するため、認証機関（デジタル証明書の発行機関）へのセカンダリネットワーク接続を必要とします。

コンピュータはまず、Intel AMT の設定およびプロビジョニングを行う準備が整った状態で、工場出荷時のデフォルト設定で出荷されます。これらのコンピュータを工場出荷時の状態からセットアップ状態に移行させるために、Intel AMT セットアップを実行する必要があります。コンピュータがセットアップ状態になったら、引き続きコンピュータを手動で設定するか、SCS と接続しているネットワークに接続して、Enterprise（エンタープライズ）モードでの Intel AMT 設定を開始します。

## IT TLS-PSK

IT TLS-PSKによる Intel AMT セットアップおよび設定は通常、企業の IT 部門で行われます。必要なものを以下に示します。

- セットアップおよび設定用サーバー
- ネットワークおよびセキュリティインフラストラクチャ

Intel AMT セットアップおよび設定を担当する IT 部門に、工場出荷時状態の Intel AMT 対応コンピュータが到着します。IT 部門は、任意の方法を使用して Intel AMT セットアップ情報を入力します。入力後、コンピュータは Enterprise（エンタープライズ）モードになり、状態は In-Setup（セットアップ中）フェーズになります。SCS により PID と PPS セットが生成されます。

Intel AMT 設定はネットワーク上で実行する必要があります。ネットワークは、Transport Layer Security Pre-Shared Key（TLS-PSK）プロトコルを使用して暗号化できます。コンピュータを SCS に接続すると、Enterprise（エンタープライズ）モードでの設定が実行されません。

## [目次に戻る](#)

## MEBx 設定の概要

Intel® Management Engine BIOS Extension (MEBx) で提供されるプラットフォームレベルの設定オプションにより、Management Engine (ME) プラットフォームの動作が設定できます。オプションには、各機能を有効および無効にしたり、電源に関する設定などがあります。

本項では、MEBx 設定オプションの詳細および制約（該当する場合）について説明します。

ME Platform Configuration (ME プラットフォーム設定) の設定変更がすべて MEBx にキャッシュされるわけではありません。これらは、MEBx が終了されるまで ME の不揮発性メモリ (NVM) に保存されます。したがって、MEBx がクラッシュした場合、この時点までに行われた変更は、ME の NVM には保存されません。

## MEBx 設定ユーザーインターフェイスへのアクセス

コンピュータの MEBx 設定ユーザーインターフェイスにアクセスするには、次の手順を実行します。

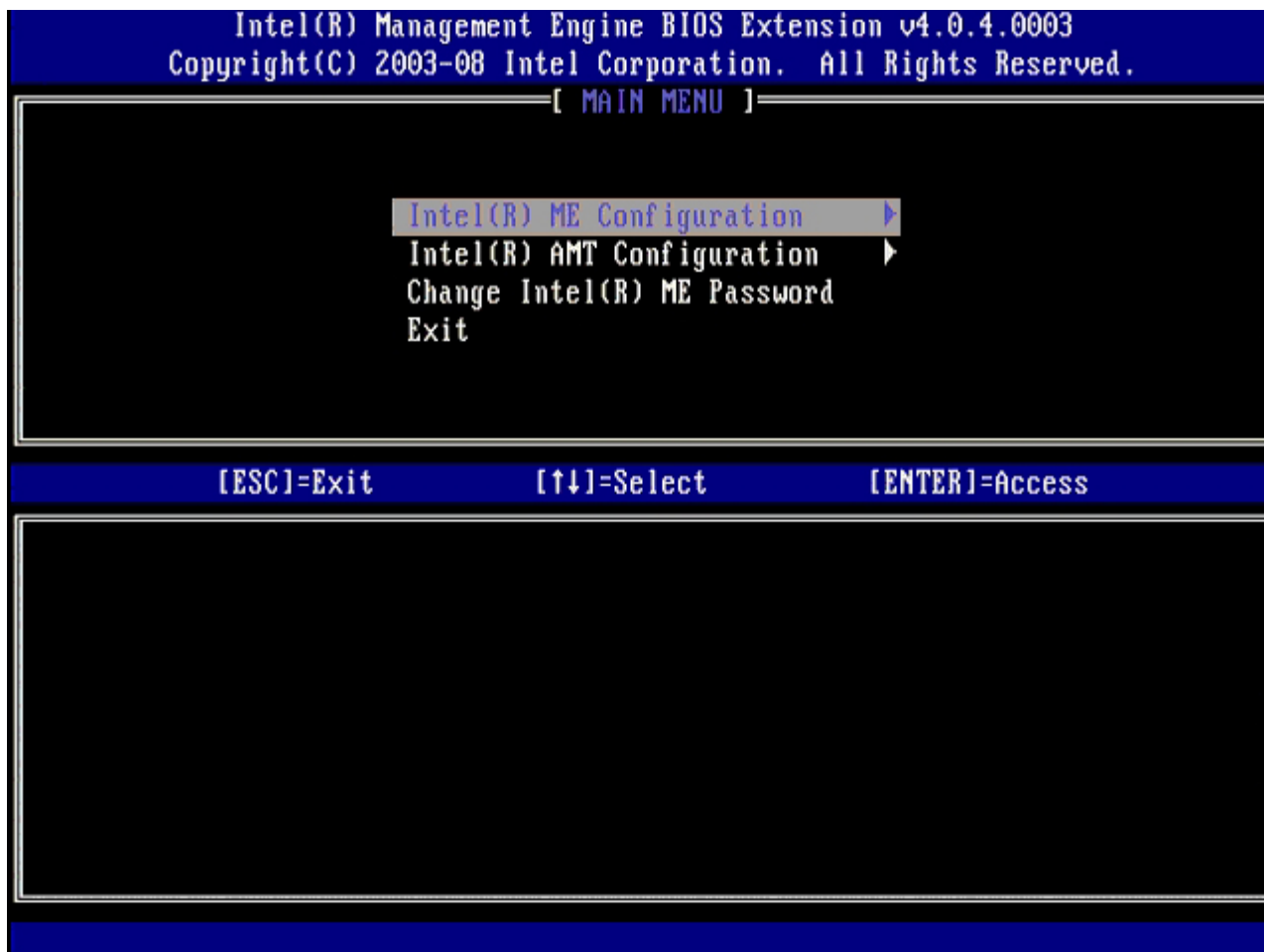
□□□ コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。

□□□ 青色の DELL™ ロゴが表示されたら、すぐに <Ctrl> と <p> を同時に押します。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やりなおします。

□□□ ME パスワードを入力します。<Enter> を押します。

次に示す MEBx 画面が表示されます。



メインメニューには、3 種類の機能が表示されます。

- **Intel ME Configuration** (Intel ME 設定)
- **Intel AMT Configuration** (Intel AMT 設定)
- **Change Intel ME Password** (Intel ME パスワードの変更)

Intel ME Configuration (Intel ME 設定) および Intel AMT Configuration (Intel AMT 設定) の各メニューについては、別のページで説明します。3 種類のメニューを使用して操作を進めるには、まずパスワードを変更する必要があります。

## Intel ME パスワードの変更

デフォルトのパスワードは `admin` で、新しく展開されるプラットフォームですべて同じです。機能の設定オプションを変更する前に、デフォルトパスワードを変更する必要があります。

新しいパスワードには必ず次の要素を含めます。

- 8 文字
- 大文字 1 文字
- 小文字 1 文字
- 数字 1 文字
- 特殊文字 (英数字以外の !、\$、または ; で、:、"、, は除く)

下線 ( `_` ) およびスペースバーは有効なパスワードですが、パスワードの複雑性を増すものではありません。

\* 本ページに記載の情報は [Intel](#) により提供されています。

[目次に戻る](#)

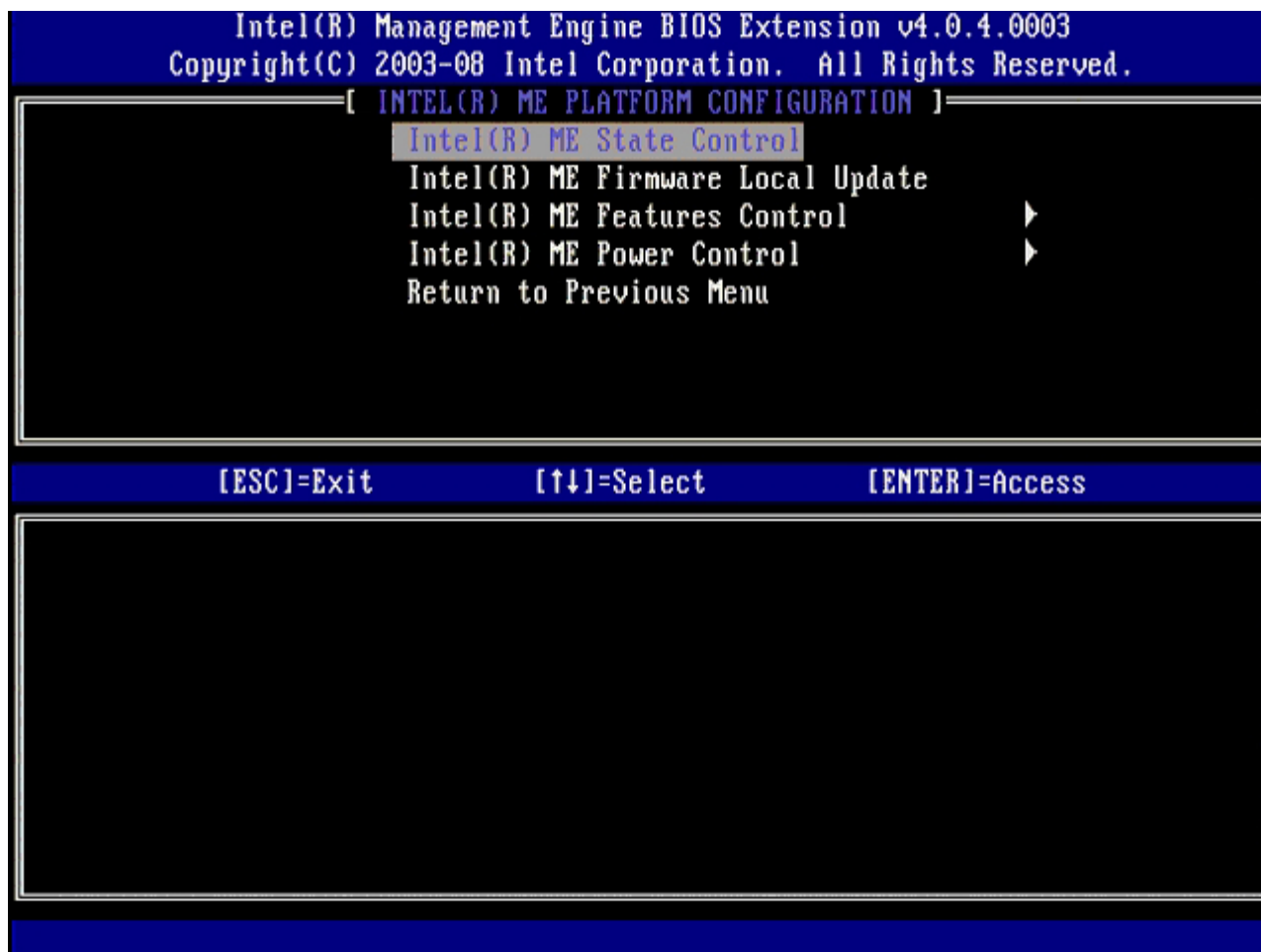
## ME Configuration (ME 設定) メニュー

Intel® Management Engine (ME) Platform Configuration (Intel® Management Engine (ME) プラットフォーム設定) ページを表示するには、次の手順を実行します。

- Management Engine BIOS Extension (MEBx) メインメニューで、**ME Configuration** (ME 設定) を選択します。<Enter> を押します。
- 次のメッセージが表示されます。  
System resets after configuration changes. Continue (Y/N) (設定変更後システムがリセットされます。続行する (Y/N) )
- <Y> を押します。

ME Platform Configuration (ME プラットフォーム設定) ページが表示されます。このページでは、ME の特定の機能 (特徴、電源オプションなど) を設定できます。各セクションへのクイックリンクを次に示します。

- [Intel ME State Control \(Intel ME 状態の制御\)](#)
- [Intel ME Firmware Local Update \(Intel ME ファームウェアのローカルアップデート\)](#)
- [Intel ME Features Control \(Intel ME 機能制御\)](#)
  - [Manageability Feature Selection \(管理可能機能選択\)](#)
- [Intel ME Power Control \(Intel ME 電源制御\)](#)
  - [Intel ME ON in Host Sleep States \(ホストのスリープ状態時に Intel ME をオン\)](#)



## Intel ME State Control (Intel ME 状態の制御)

ME Platform Configuration (ME プラットフォーム設定) メニューで ME State Control (ME 状態の制御) オプションが選択されている場合は、ME State Control (ME 状態の制御) メニューが表示されます。ME を無効にして、デバッグプロセスが終了するまで ME コンピュータをメインプラットフォームから隔離することができます。



Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION ]

Intel(R) ME State Control

Intel(R) ME Firmware Local Update

Intel(R) ME Features Control ▶

Intel(R) ME Power Control ▶

Return to Previous Menu

[ESC]=Exit

[↑↓]=Select

[ENTER]=Access

[ ] DISABLED

[\*] ENABLED

**ME State Control** (ME 状態の制御) オプションが有効な場合、ME を無効にして、フィールドの動作不良をデバッグする間 ME コンピュータをメインプラットフォームから隔離することができます。オプションの詳細を下表に示します。

ME Platform State Control (MEプラットフォーム状態の制御)	
オプション	説明
Enabled (有効)	プラットフォームで Management Engine を有効にします。
Disabled (無効)	プラットフォームで Management Engine を無効にします。

実際には、ME は Disabled (無効) オプションを使用しても無効にはなりません。代わりに、ME は起動の初期段階で中断されるため、バス上には ME から発生するトラフィックは存在せず、ME が原因である可能性を気にすることなく、コンピュータの問題をデバッグできます。

## Intel ME Firmware Local Update (Intel ME ファームウェアのローカルアップデート)

**ME Platform Configuration** (ME プラットフォーム設定) メニューに含まれるこのオプションでは、MEBx のローカルでのアップデートを許可するポリシーを設定します。デフォルト設定は Disabled (無効) です。使用可能なもう1つの設定は Enabled (有効) です。Enabled (有効) は、ME ファームウェアのローカルアップデートを許可します。Disable (無効) は ME ファームウェアのローカルアップデートを禁止します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION ]

Intel(R) ME State Control

Intel(R) ME Firmware Local Update

Intel(R) ME Features Control ▶

Intel(R) ME Power Control ▶

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[ ] DISABLED

[\*] ENABLED

## Intel ME Features Control (Intel ME 機能制御)

ME Features Control (ME 機能制御) メニューには、設定に関する次の選択項目が含まれます。

## Manageability Feature Selection (管理可能機能選択)

ME Features Control (ME 機能制御) メニューで Manageability Feature Selection (管理可能機能選択) を選択すると、ME Manageability Feature (ME 管理機能) メニューが表示されます。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME FEATURES CONTROL ]

Manageability Feature Selection  
Return to Previous Menu

[ESC]=Exit

[↑↓]=Select

[ENTER]=Access

[ ] NONE

[\*] Intel(R) AMT

[ ] ASF

このオプションを使用して、どの管理可能機能が有効になっているかを確認できます。

- **ASF** — Alert Standard Format (アラート標準形式) ASF は標準化された企業資産管理テクノロジーです。Intel ICH9 プラットフォームは ASF 仕様 2.0 をサポートしています。
- **Intel AMT** — Intel Active Management Technology Intel AMT は、企業資産管理テクノロジーが改良されたものです。

これらのオプションについて下表で説明します。

Management Feature Select (管理機能選択) オプション	
オプション	説明
None (なし)	管理可能機能は選択されません。
Intel AMT	Intel AMT 管理可能機能が選択されます。
ASF	ASF 管理可能機能が選択されます。

オプションを **Intel AMT** から **None (なし)** に変更すると、この変更を確認した場合 Intel AMT のプロビジョン解除が自動的に行われることを知らせる警告が表示されます。

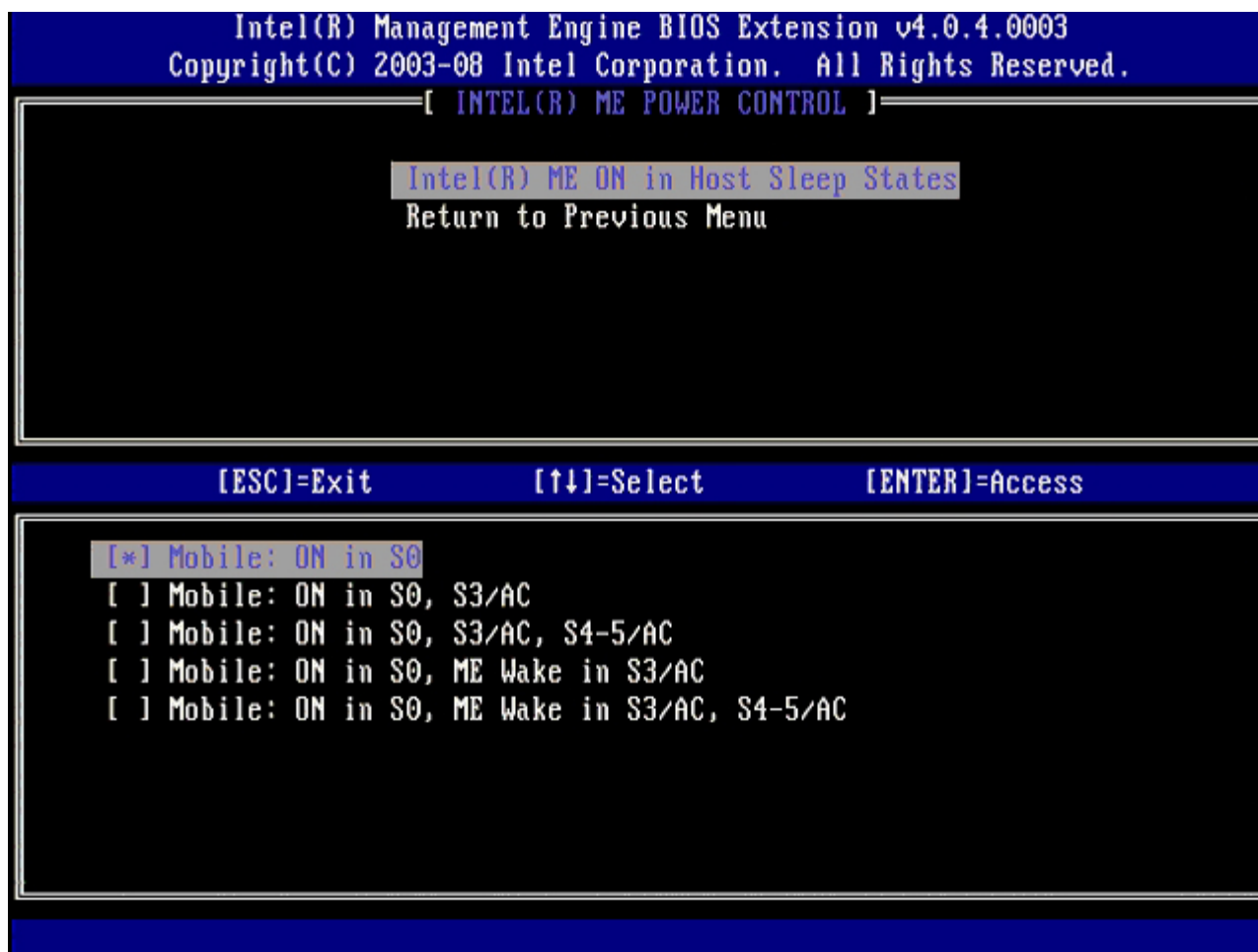
**None (なし)** オプションを選択すると、ME コンピュータで提供される管理可能機能は使用されません。この場合、ファームウェアはロードされますが (ME は依然として有効)、管理アプリケーションは無効のままです。

## Intel ME Power Control (Intel ME 電源制御)

ENERGY STAR の要件に準拠するため、各種スリープ状態で Intel Management Engine をオフにすることができます。Intel ME Power Control (Intel ME 電源制御) メニューは、Intel ME プラットフォームの電源ポリシーを設定します。

## ME On in Host Sleep States (ホストのスリープ状態時に Intel ME をオン)

ME Power Control (ME 電源制御) メニューで **ME ON in Host Sleep States** (ホストのスリープ状態時に Intel ME をオン) オプションを選択すると、**ME in Host Sleep States** (ホストのスリープ状態時の ME) メニューが表示されます。



選択された電源パッケージにより、ME の電源をオンにするタイミングが決まります。デフォルトの電源パッケージは **Mobile: ON in S0** (モバイル: S0 でオン) です。エンドユーザー管理者は、コンピュータの使用状況に応じて、使用する電源パッケージを選択できます。電源パッケージの選択画面を上記に示します。

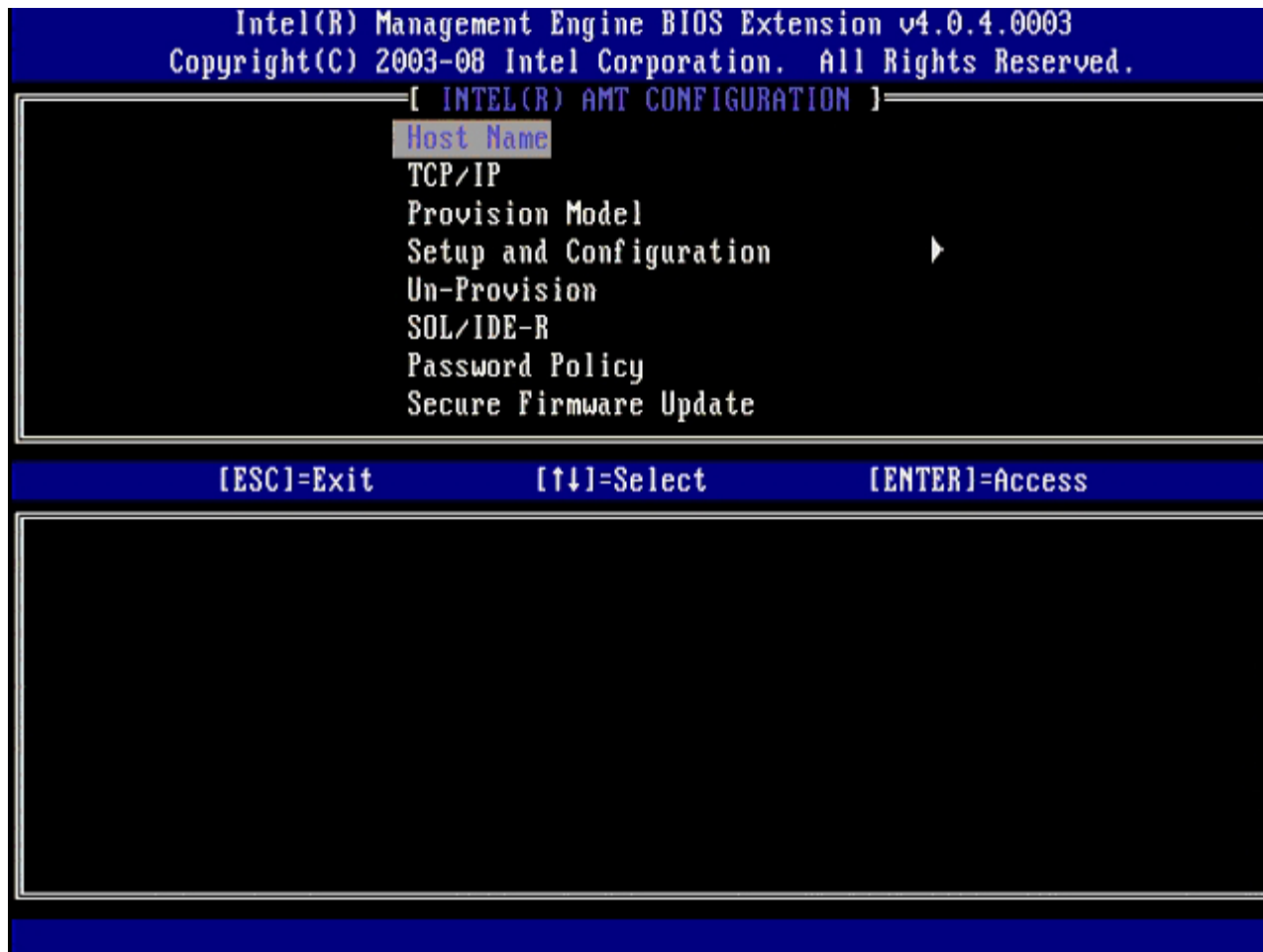
\* 本ページに記載の情報は [Intel](#) により提供されています。

[目次に戻る](#)

## AMT Configuration (AMT設定) メニュー

Intel® Management Engine (ME) 機能の設定完了後は、Intel AMT を設定する前にまずシステムを再起動して、システムがクリーンブートできるようにする必要があります。次の図は、**Management Engine BIOS Extension (MEBx)** (Management Engine BIOS Extension (MEBx)) メインメニューから**Intel AMT Configuration** (Intel AMT 設定) オプションが選択された後の **Intel AMT configuration** (Intel AMT 設定) メニューを示しています。この機能により、Intel AMT 対応コンピュータが Intel AMT 管理機能をサポートするよう設定できます。

ネットワークやコンピュータテクノロジーに関する用語 (TCP/IP、DHCP、VLAN、IDE、DNS、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、ドメイン名など) に関する基礎知識が必要です。このドキュメントでは、これらの用語について説明していません。



Intel AMT Configuration (Intel AMT 設定) ページには、次に示すとおりユーザー設定可能なオプションが表示されます。

これらのメニューオプションの図については、このマニュアルの「[エンタープライズモードでのセットアップ](#)」および「[SMB モードでのセットアップ](#)」のページを参照してください。

### メニューオプション

- [Host Name \(ホスト名\)](#)
- [TCP/IP](#)
- [Provision Model \(プロビジョンモデル\)](#)
- [Setup and Configuration \(セットアップおよび設定\)](#)
- [Un-Provision \(プロビジョン解除\)](#)
- [SOL/IDE-R](#)
- [Password Policy \(パスワードポリシー\)](#)
- [Secure Firmware Update \(セキュアファームウェアのアップデート\)](#)
- [Set PRTC \(PRTC の設定\)](#)
- [Idle Timeout \(アイドルタイムアウト\)](#)

## Host Name (ホスト名)

Intel AMT 対応コンピュータにホスト名を割り当てることができます。これは、AMT 有効コンピュータのホスト名です。Intel AMT が DHCP に設定されている場合、ホスト名はオペレーティングシステムのマシン名と同一にすることが必要です。

## TCP/IP

次に示す Intel AMT の TCP/IP 設定が変更できます。

- **Network interface** (ネットワークインタフェース) – ENABLE\*\* / DISABLED (有効\*\* / 無効)  
Network interface (ネットワークインタフェース) が無効な場合、すべての TCP/IP 設定は不要となります。
- **DHCP Mode** (DHCP モード) – ENABLE\*\* / DISABLED (有効\*\* / 無効)  
DHCP Mode (DHCP モード) が有効な場合、TCP/IP 設定は、DHCP サーバーによって設定されます。

DHCP Mode (DHCP モード) が無効な場合、Intel AMT には次の静的 TCP/IP 設定が必要です。コンピュータが静的モードの場合、Intel Management Engine には個別の MAC アドレスが必要です。この追加の MAC アドレスは、多くの場合、Manageability MAC (MNGMAC) アドレスと呼ばれます。個別の Manageability MAC アドレスがない場合、コンピュータを静的モードに設定することはできません。

- **IP address** (IPアドレス) – Intel Management Engine のインターネットアドレス
- **Subnet mask** (サブネットマスク) – IP アドレスが属するサブネットの識別に使用するサブネットマスク
- **Default Gateway address** (デフォルトのゲートウェイアドレス) – Intel Management Engine のデフォルトのゲートウェイ
- **Preferred DNS address** (優先 DNS アドレス) – 優先するドメイン名サーバーのアドレス
- **Alternate DNS address** (代替 DNS アドレス) – 代替ドメイン名サーバーのアドレス
- **Domain name** (ドメイン名) – Intel Management Engine のドメイン名

## Provision Model (プロビジョンモデル)

次のプロビジョニングモデルが使用可能です。

- **Provisioning Mode** (プロビジョニングモード) – Enterprise\*\* / Small Business (エンタープライズ\*\* / 小企業)  
このオプションで、Small Business (小企業) と Enterprise (エンタープライズ) の 2 つのモードを切り替えます。Enterprise (エンタープライズ) モードは、Small Business (小企業) モードとセキュリティ設定が異なる場合があります。これら 2 つのモードはセキュリティ設定が異なるため、セットアップおよび設定プロセスを完了するには、異なるプロセスが必要です。

## Setup and Configuration (セットアップおよび設定)

このメニューには、セットアップおよび設定用サーバーのパラメータが含まれます。またこのメニューには、PSK および PKI の設定に使用するセキュリティ設定も含まれています。

[ INTEL(R) SETUP AND CONFIGURATION ]

Current Provisioning Mode

Provisioning Record

Provisioning Server

TLS PSK

TLS PKI

Return to Previous Menu

[ESC]=Exit

[↑↓]=Select

[ENTER]=Access

- **Current Provisioning Mode** (現在のプロビジョニングモード) – 現在のプロビジョニング TLS モード (None (なし)、PKI、または PSK) を表示します。この設定は Enterprise Provision Model でのみ表示されます。
- **Provisioning Record** (プロビジョニング記録) – コンピュータの PSK/PKI プロビジョニング記録データを表示します。データが入力されていない場合は、MEBXから「Provision Record not present」(プロビジョニング記録が存在しません)というメッセージが表示されます。データが入力されている場合は、**Provision Record** (プロビジョニング記録) では次が表示されます。
  - **TLS provisioning mode** (TLS プロビジョニングモード) – コンピュータの現在の設定モード (None (なし)、PKI、または PSK) を表示します。
  - **Provisioning IP** (プロビジョニング IP) – セットアップおよび設定用サーバーの IP です。
  - **Date of Provision** (プロビジョニング日) – プロビジョニングの日時を MM/DD/YYYY HH:MM の形式で表示します。
  - **DNS** – セキュア DNS が使用されているかどうかを示します。0 は DNS が使用されていないことを示し、1 はセキュア DNS が使用されていることを示します (PKI のみ)。
  - **Host Initiated** (ホストによる開始) – セットアップおよび設定プロセスがホストによって開始されたかどうかを示します。「No」はセットアップおよび設定プロセスがホストによって開始されていないことを示し、「Yes」はセットアップおよび設定プロセスがホストによって開始されたことを示します (PKI のみ)。
  - **Hash Data** (ハッシュデータ) – 40 文字の証明書ハッシュデータを表示します (PKI のみ)。
  - **Hash Algorithm** (ハッシュアルゴリズム) – ハッシュの種類を示します。現在は SHA1 のみがサポートされています (PKI のみ)。
  - **IsDefault** (デフォルト) – ハッシュアルゴリズムがデフォルトのアルゴリズムとして選択されている場合は、「Yes」が表示されます。ハッシュアルゴリズムがデフォルトのアルゴリズムとして使用されていない場合は、「No」と表示されます (PKI のみ)。
  - **FQDN** – 証明書に記載されているプロビジョニングサーバーの FQDN (PKI のみ) です。
  - **Serial Number** (シリアルナンバー) – 32 文字の Certificate Authority シリアルナンバーです。
  - **Time Validity Pass** (時間有効性合格) – 証明書が時間有効性チェックに合格したかどうかを示します。
- **Provisioning Server** (プロビジョニングサーバー) – Intel AMT プロビジョニングサーバーの IP アドレスとポート番号 (0~65535) この設定は Enterprise Provision Model でのみ表示されます。デフォルトのポート番号は 9971 です。
- **TLS PSK** – TLS PSK の設定値が表示されます。
  - **Set PID and PPS** (PID および PPS の設定) – プロビジョニング ID (PID) とプロビジョニングパスフレーズ (PPS) PID と PPS をダッシュ (-) 形式で入力します。(例: PID: 1234-ABCD ; PPS: 1234-ABCD-1234-ABCD-1234-ABCD) 注記: PPS 値「0000-0000-0000-0000-0000-0000-0000-0000」によりセットアップおよび設定状態は変更されません。この値が使用されている場合は、セットアップおよび設定状態は「Not-started」(起動しない)のままになります。
  - **Delete PID and PPS** (PID および PPS の削除) – ME に保存されている現在の PID と PPS を削除します。PID と PPS が

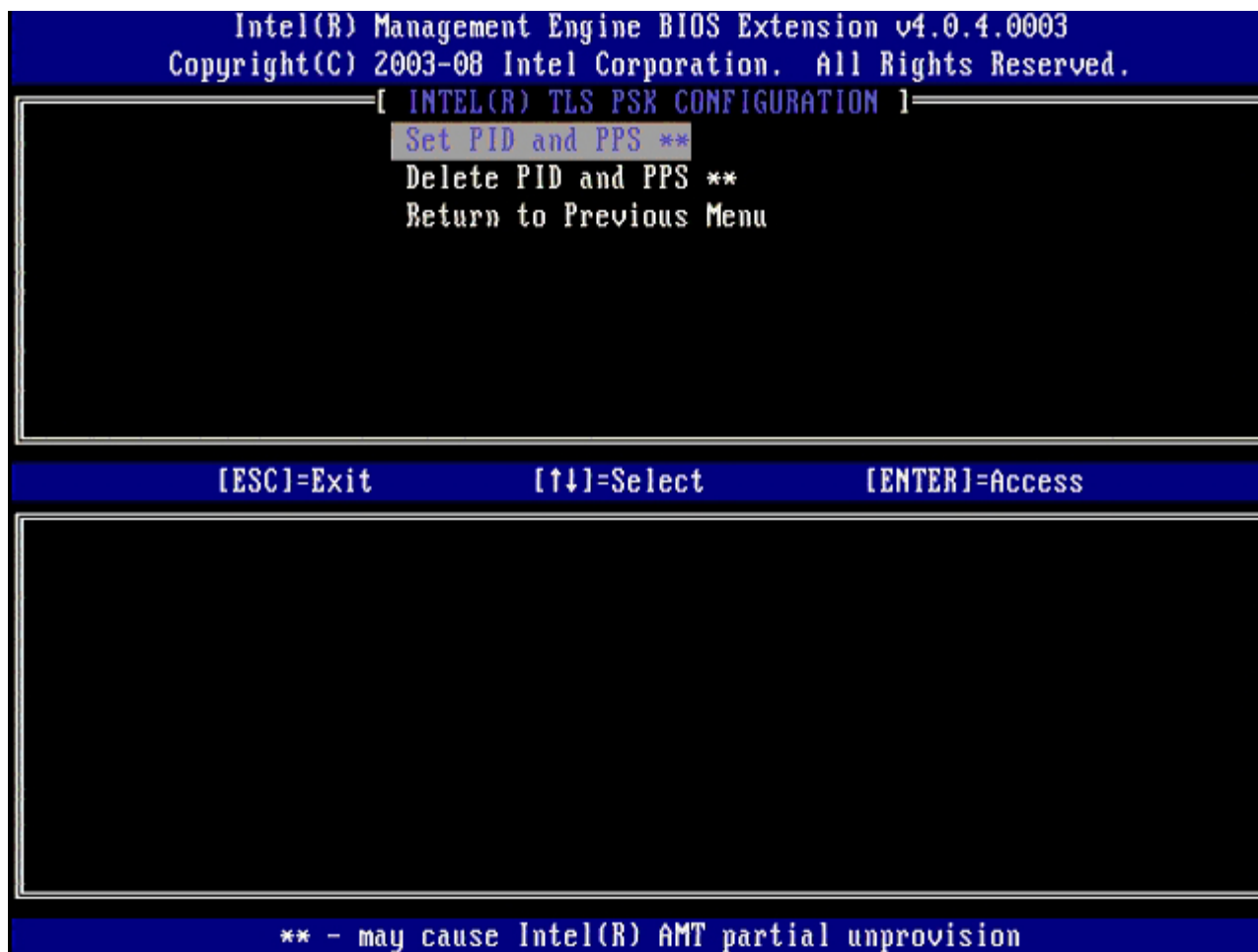
入力されていない場合は、エラーメッセージが表示されます。このオプションを使用しても、セットアップおよび設定プロセスのパラメータは「Not Started」（起動しない）には設定されません。このオプションではこのパラメータは「In Process」（処理中）に設定されます。

- **TLS PKI** – TLS PKI の設定値が含まれます。
  - **Remote Configuration Enable/Disable**（リモート設定有効 / 無効） – リモート設定を有効または無効にします。このオプションが有効になっていない場合は、リモート設定は行えません。
  - **Manage Certificate Hashes**（証明書ハッシュの管理） – 現在保存されているハッシュと現在のステータスのリストを表示します。証明書の現在アクティブなステータスを変更するには、<+> キーを押します。ハッシュを削除するには、<del> キーを押します。別のキーを追加するには、<ins> キーを押します。
  - **Set FQDN**（FQDN の設定） – コンピュータの完全修飾ドメイン名を設定します。
  - **Set PKI DNS suffix**（PKI DNS サフィックスの設定） – PKI DNS サフィックスを設定します。

## TLS PSK

このサブメニューには、TLS PSK の設定値が含まれます。PID/PPS を設定または削除すると、セットアップおよび設定状態が「In-process」（処理中）の場合、部分的なプロビジョン解除の原因となります。

- **Set PID and PPS**（PID および PPS の設定） – PID と PPS を設定します。PID と PPS をダッシュ (-) 形式で入力します。（例：PID: 1234-ABCD ; PPS: 1234-ABCD-1234-ABCD-1234-ABCD-1234-ABCD） PPS値「0000-0000-0000-0000-0000-0000-0000-0000」によりセットアップおよび設定状態は変更されません。この値が使用されている場合は、セットアップおよび設定状態は「Not-started」（起動しない）のままになります。
- **Delete PID and PPS**（PID および PPS の削除） – ME に保存されている現在の PID と PPS を削除します。PID と PPS が入力されていない場合は、エラーメッセージが表示されます。



## TLS PKI – リモート設定の設定値

リモート設定オプションは、TLS PKI サブメニューに含まれています。リモート設定項目には次の 4 種類があります。

- Remote Configuration Enable/Disable（リモート設定有効 / 無効）
- Manage Certificate Hashes（証明書ハッシュの管理）



- Set FQDN (FQDN の設定)
- Set PKI DNS Suffix (PKI DNS サフィックスの設定)



### Remote Configuration Enable/Disable (リモート設定有効 / 無効)

Enable (有効) と Disable (無効) のいずれかが選択できます。Remote Configuration (リモート設定) が無効の場合、その下のメニューオプションは表示されますが、Remote Configuration (リモート設定) を有効にするまで使用できません。

セットアップおよび設定プロセスが 処理中になると、このオプションは修正できません。このパラメータを修正できるのは、コンピュータが工場出荷時のデフォルトまたはプロビジョン解除の状態のときだけです。

セットアップおよび設定プロセスが In-process (処理中) 状態の場合、リモート設定を有効 / 無効にすると、部分的なプロビジョン解除の原因となります。

### Manage Certificate Hashes (証明書ハッシュの管理)

Remote Configuration (リモート設定) メニューの Manage Certificate Hashes (証明書ハッシュの管理) オプションを選択して、Manage Certificate Hashes (証明書ハッシュの管理) メニューを表示します。工場出荷時には 4 種類のデフォルトハッシュが使用できます。ハッシュはユーザーの要望に応じて削除したり追加できます。

[ INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION ]

Remote Configuration Enable/Disable \*\*  
Manage Certificate Hashes  
Set FQDN  
Set PKI DNS Suffix  
Return to Previous Menu

Hash Name	Active	Default
VeriSign Class 3 Primary CA-G1	[ ]	[*]
VeriSign Class 3 Primary CA-G3	[ ]	[*]
Go Daddy Class 2 CA	[ ]	[*]
Comodo AAA CA	[ ]	[*]
Starfield Class 2 CA	[ ]	[*]

[ESC]=Exit

[INS]=Add

[DEL]=Del

[+]=Active

[ENTER]=View

Manage Certificate Hash (証明書ハッシュの管理) 画面には、コンピュータ上でハッシュを管理する際に使用するキーボードコントロールがいくつか表示されます。Manage Certificate Hash (証明書ハッシュの管理) メニューの表示時は次のキーが有効です。

- **Escape key** (エスケープキー) – メニューを終了します。
- **Insert key** (挿入キー) – カスタマイズされた証明書のハッシュをコンピュータに追加します。
- **Delete key** (削除キー) – 現在選択されている証明書のハッシュをコンピュータから削除します。
- **<+> key** (<+> キー) – 現在選択されている証明書のハッシュのアクティブな状態を変更します。
- **Enter key** (Enter キー) – 現在選択されている証明書ハッシュの詳細を表示します。

カスタマイズされたハッシュの追加

- **Manage Certificate Hash** (証明書ハッシュの管理) 画面で <Insert> を押します。ハッシュ名の入力を要求するテキストフィールドが表示されます。
- ハッシュ名を入力します。ハッシュ名は 32 文字以内で入力する必要があります。<Enter> を押すと、証明書ハッシュの値を入力するようプロンプトが表示されます。
- 証明書ハッシュの値は 20 バイトの 16 進数です。ハッシュデータは正しい形式で入力してください。正しくない場合、Invalid Hash Certificate Entered - Try Again (無効なハッシュ証明書が入力されました- もう一度入力してください) というメッセージが表示されます。<Enter> を押すと、ハッシュのアクティブな状態を設定するかどうかを尋ねるプロンプトが表示されます。
- このプロンプトでは、カスタマイズ済みのハッシュのアクティブな状態を設定できます。
  - **Yes** (はい) – カスタマイズ済みのハッシュがアクティブとマーキングされます。
  - **No** (いいえ) (デフォルト) – EPS 内で VA\_Hash が保持されます。

ハッシュの削除

- **Manage Certificate Hash** (証明書ハッシュの管理) 画面で <Delete> を押して、次のプロンプトを表示します。  
Delete this certificate hash? (Y/N) (この証明書ハッシュを削除しますか? (Y/N))
- このオプションでは、選択した証明書ハッシュを削除できます。
  - **Yes** (はい) – MEBx により、選択したハッシュを削除するメッセージが FW へ送信されます。
  - **No** (いいえ) – MEBx により、選択したハッシュは削除されず、**Remote Configuration** (リモート設定) へ戻ります。

アクティブな状態の変更

**Manage Certificate Hash** (証明書ハッシュの管理) 画面で <+> キーを押して、次のプロンプトを表示します。

Change the active state of this hash? (Y/N) (このハッシュのアクティブな状態を変更しますか? (Y/N) )  
このメッセージに Yes (はい) と回答すると、現在選択されている証明書ハッシュのアクティブな状態が切り替わります。ハッシュをアクティブな状態に設定することは、PSK のプロビジョニング中にハッシュを使用できることを示します。

証明書ハッシュの表示

**Manage Certificate Hash** (証明書ハッシュの管理) 画面で <Enter> を押します。選択した証明書ハッシュの詳細 (ハッシュ名、証明書ハッシュデータ、アクティブな状態とデフォルトの状態) が表示されます。

## Set FQDN (FQDNの設定)

**Remote Configuration** (リモート設定) メニューで **Set FQDN** (FQDN の設定) オプションを選択すると、プロビジョニングサーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力するようプロンプトが表示されます。



## Set PKI DNS Suffix (PKI DNS サフィックスの設定)

**Remote Configuration** (リモート設定) メニューで **Set PKI DNS Suffix** (PKI DNS サフィックスの設定) オプションが選択されている場合は、プロビジョニングサーバーの **PKI DNS Suffix** (PKI DNS サフィックス) を設定するようプロンプトが表示されます。Key Value (キーの値) は EPS に保持されます。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION ]  
Remote Configuration Enable/Disable \*\*  
Manage Certificate Hashes  
Set FQDN  
Set PKI DNS Suffix  
Return to Previous Menu

Enter PKI DNS Suffix

[ESC]=Exit

[ENTER]=Submit

## Un-provision (プロビジョン解除)

**Un-Provision** (プロビジョン解除) オプションを使用して、Intel AMT 設定を工場出荷時のデフォルトにリセットできます。設定解除には次の 2 種類の方法があります。

- **Full Un-provision** (完全なプロビジョン解除) – Intel AMT のすべての設定が工場出荷時のデフォルトにリセットされます。PID/PPS 値が設定されている場合は、どちらの値も失われます。MEBx パスワードは影響を受けません。
- **CMOS clear** (CMOS クリア) – このプロビジョン解除オプションは MEBx では使用できません。このオプションによりすべての値がデフォルト値に戻ります。PID/PPS 値が設定されている場合は、どちらの値も失われます。MEBx パスワードはデフォルト値 (admin) にリセットされます。このオプションを起動するには、CMOS (システム基板のジャンパ) をクリアする必要があります。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
**Un-Provision**  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

## SOL/IDE-R

- **Username and Password** (ユーザー名とパスワード) – DISABLED\*\* / ENABLED (無効\*\* / 有効)  
このオプションでは、SOL/IDER セッションに対するユーザー認証を行います。Kerberos プロトコルが使用されている場合は、このオプションを **Disabled** (無効) に設定し、Kerberos を使用してユーザー認証を設定します。Kerberos が使用されていない場合は、SOL/IDER セッションでユーザー認証を有効または無効にするかを選択できます。
- **Serial-Over-LAN (SOL)** (シリアルオーバー LAN (SOL) ) – DISABLED\*\* / ENABLED (無効\*\* / 有効)  
SOL を使用して、Intel AMT で管理されているクライアントコンソールの入出力を管理サーバーコンソールにリダイレクトできます。
- **IDE Redirection (IDE-R)** (IDEリダイレクション (IDE-R) ) – DISABLED\*\* / ENABLED (無効\*\* / 有効)  
IDE-R を使用して、Intel AMT で管理されているクライアントを管理コンソールのリモートディスクイメージから起動できます。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

## Password Policy (パスワードポリシー)

ファームウェアには 2 種類のパスワードがあります。MEBX パスワードは、ユーザーがシステムを実際に使用する際に入力するパスワードです。ネットワークパスワードは、ネットワーク経由で ME 対応のシステムにアクセスする際に入力するパスワードです。このオプションは、ネットワークパスワードと MEBX パスワードを同期化するタイミングを決定します。MEBX パスワードは、システムでユーザーが直接修正できます。ただし、以降で選択するオプションによっては、ネットワークパスワードと MEBX パスワードが異なる場合があります。設定項目は次のとおりです。

- **Default Password Only** (デフォルトのパスワードのみ) – MEBX パスワードとネットワークパスワードは、デフォルトのパスワードから変更された場合のみ同期化されます。MEBX パスワードをデフォルトから変更した後、ネットワークパスワードと MEBX パスワードが異なる場合があります。
- **During Setup and Configuration** (セットアップおよび設定時) – MEBX パスワードとネットワークパスワードは、セットアップおよび設定状態の間に同期化されます。セットアップおよび設定プロセス完了後、2 つのパスワードが異なる場合があります。
- **Anytime** (随時) – MEBX パスワードとネットワークパスワードは、どちらか一方のパスワードが変更された場合に同期化されます。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]=Exit

[↑↓]=Select

[ENTER]=Access

[\*] DEFAULT PASSWORD ONLY

[ ] DURING SETUP AND CONFIGURATION

[ ] ANYTIME

## Secure Firmware Update (セキュアファームウェアのアップデート)

このオプションを使用して、セキュアファームウェアのアップデートを有効または無効にできます。**Secure firmware update** (セキュアファームウェアのアップデート) には、管理者のユーザー名とパスワードが必要です。管理者のユーザー名とパスワードが提供されない場合は、ファームウェアをアップデートできません。

**Secure firmware update** (セキュアファームウェアのアップデート) 機能が有効な場合、安全な方法を使用してファームウェアをアップデートできます。Secure firmware updates (セキュアファームウェアのアップデート) は LMS ドライバを通過します。セキュアおよびローカルファームウェアのアップデートが無効な場合は、セキュアファームウェアのアップデートまたはローカルファームウェアのアップデートを有効にして、ファームウェアのアップデートを許可する必要があります。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[ ] DISABLED

[\*] ENABLED

## Set PRTC (PRTC の設定)

PRTC を GMT (UTC) 形式で入力します (YYYY:MM:DD:HH:MM:SS)。有効な日付の範囲は、1/1/2004~1/4/2021 です。設定した PRTC 値は、電源オフ (G3) 状態の場合に PRTC を事実上保持するのに使用されます。この設定は Enterprise Provision Model でのみ表示されます。



Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update  
Set PRTC

Enter PRTC in GMT(UTC) format(YYYY:MM:DD:HH:MM:SS)

[ESC]=Exit

[ENTER]=Submit

## Idle Timeout (アイドルタイムアウト)

この設定を使用して、ME WOL アイドルタイムアウトを定義します。このタイマーが切れると、ME は省電力状態になります。このタイムアウトは、ME WOL の電力ポリシーのいずれか 1 つが選択されている場合にだけ作用します。値を分単位で入力します。

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Provision Model  
 Setup and Configuration ▶  
 Un-Provision  
 SOL/IDE-R  
 Password Policy  
 Secure Firmware Update  
 Set PRTC  
 Idle Timeout

Timeout Value (1-65535)

[ESC]=Exit

[ENTER]=Submit

## DHCP モードでの Intel AMT の設定例

Intel AMT Configuration (Intel AMT設定) メニューページでコンピュータを DHCP モードで設定する際の基本フィールドの設定例を下表に示します。

DHCP モードでの Intel AMT の設定例	
Intel AMT Configuration (Intel AMT 設定) のパラメータ	値
Intel AMT Configuration (Intel AMT 設定)	選択して、<Enter> を押します。
Host Name (ホスト名)	例：IntelAMT オペレーティングシステムのマシン名と同じ名前です。
TCP/IP	次のようにパラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Network interface (ネットワークインタフェース) を有効にします。</li> <li>• DHCP Mode (DHCP モード) を有効にします。</li> <li>• ドメイン名を設定します (amt.intel.com など)。</li> </ul>
Provision Model (プロビジョンモデル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Intel AMT 4.0 Mode (Intel AMT 4.0 モード)</li> <li>• Small Business (小企業)</li> </ul>
SOL/IDE-R	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SOL を有効にします。</li> <li>• IDE-R を有効にします。</li> </ul>
Remote FW Update (ファームウェアのリモートアップデート)	Enabled (有効)

MEBx を保存して終了した後、コンピュータを Windows® オペレーティングシステムで起動します。

## 静的モードでの Intel AMT の設定例

**Intel AMT Configuration** (Intel AMT 設定) メニューページでコンピュータを静的モードで設定する際の基本フィールドの設定例を下表に示します。コンピュータを静的モードで動作させるには、2 つの MAC アドレス (GBE MAC アドレスと Manageability MAC アドレス) が必要です。Manageability MAC アドレスがない場合は、Intel AMT を静的モードで設定できません。

静的モードでの Intel AMT の設定例	
Intel AMT Configuration (Intel AMT 設定) のパラメータ	値
Intel AMT Configuration (Intel AMT 設定)	選択して、<Enter> を押します。
Host Name (ホスト名)	例: IntelAMT
TCP/IP	次のようにパラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>Network interface</b> (ネットワークインタフェース) を有効にします。</li><li>• <b>DHCP Mode</b> (DHCP モード) を無効にします。</li><li>• IP アドレスを設定します (192.168.0.15 など)。</li><li>• サブネットマスクを設定します (255.255.255.0 など)。</li><li>• デフォルトのゲートウェイアドレスはオプションです。</li><li>• 優先 DNS アドレスはオプションです。</li><li>• 代替 DNS アドレスはオプションです。</li><li>• ドメイン名を設定します (amt.intel.com など)。</li></ul>
Provision Model (プロビジョンモデル)	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>Intel AMT 4.0 Mode</b> (Intel AMT 4.0 モード) です。</li><li>• <b>Small Business</b> (小企業)</li></ul>
SOL/IDE-R	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>SOL</b> を有効にします。</li><li>• <b>IDE-R</b> を有効にします。</li></ul>
Remote FW Update (ファームウェアのリモートアップデート)	Enabled (有効)

MEBx を保存して終了した後、コンピュータを Windows オペレーティングシステムで起動します。

\*本ページに記載の情報は [Intel](#) により提供されています。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

## セットアップおよび設定方法の概要

セットアップおよび設定の概要 で説明したとおり、Intel AMT 機能を管理アプリケーションで使用できるようにする前に、コンピュータを設定する必要があります。プロビジョニングプロセスを完了するには 2 通りの方法があります（単純な方法から複雑な方法の順）。

- **設定サービス** — 設定サービスを使用すると、サーバーの GUI コンソールからワンタッチで各 Intel AMT 対応コンピュータのプロビジョニングプロセスを完了できます。PPS および PID フィールドは、USB 大容量ストレージデバイスに保存されている、設定サービスで作成されたファイルを使用して入力します。
- **MEBx インタフェース** — IT 管理者が各 Intel AMT 対応コンピュータで、Management Engine BIOSExtension (MEBx) 設定を手動で行います。PPS および PID フィールドには、設定サービスで作成される 32 文字と 8 文字の英数字キーを MEBx インタフェースに入力します。

上記の各方法の詳細については、次のいくつかの項で説明します。

[目次に戻る](#)

## 設定サービス

本項では、USB ストレージデバイスを使用した Intel® AMT のセットアップおよび設定について説明します。USB ドライブキーを使用して、セットアップ、ローカルでのパスワード、プロビジョニング ID (PID)、プロビジョニングパスフレーズ (PPS) 情報の設定を行います。この操作は、USB プロビジョニングとも呼ばれます。USB プロビジョニングでは、コンピュータを手動でセットアップおよび設定でき、エントリでの手動入力に関連する問題も発生しません。

USB プロビジョニングは、MEBx パスワードが工場出荷時のデフォルトである `admin` に設定されている場合にのみ実行できます。パスワードが変更されている場合は、CMOS をクリアしてパスワードを工場出荷時のデフォルトにリセットしてください。

USB ドライブキーを使用した標準的なセットアップおよび設定手順を以降に示します。Altiris® Dell™ Client Manager (DCM) の使用に関する一連の詳しい手順については、[USBのセットアップおよび設定](#) ページを参照してください。

- IT テクニカルスタッフが、管理コンソールを備えたコンピュータに USB ドライブキーを挿入します。
- IT テクニカルスタッフは、コンソールからセットアップおよび設定用サーバー (SCS) にローカルセットアップおよび設定記録を要求します。
- SCS は以下を実行します。
  - 適切なパスワード、PID、PPS のセットの生成
  - 上記情報のデータベースへの保存
  - 上記情報の管理コンソールへの返送
- 管理コンソールは、USB ドライブキーの `setup.bin` ファイルにパスワード、PID、PPS のセットを書き込みます。
- IT テクニカルスタッフは、新しい Intel AMT 対応コンピュータが配置されているステージングの場所に USB ドライブキーを持って行きます。次に以下を行います。
  - 必要に応じてコンピュータを開梱して接続します。
  - コンピュータに USB ドライブキーを挿入します。
  - コンピュータの電源を入れます。
- コンピュータの BIOS が USB ドライブキーを検出します。
  - 検出された場合、BIOS はドライブキーの先頭にある `setup.bin` ファイルを検索します。手順 7 に進みます。
  - USB ドライブキーまたは `setup.bin` ファイルが検出されない場合は、コンピュータを再起動します。以降の手順は無視してください。
- コンピュータの BIOS に、自動セットアップおよび設定が実行されることを知らせるメッセージが表示されます。
  - `setup.bin` ファイルで最初に使用可能な記録がメモリに読み込まれます。このプロセスにより以下が実行されます。
    - ファイルのヘッダー記録の検証
    - 次に使用可能な記録の検索
    - この手順が正常に実行された場合、現在の記録が再使用されないよう無効にされます。
  - このプロセスにより、メモリのアドレスが MEBx パラメータブロックに配置されます。
  - このプロセスにより、MEBx が呼び出されます。
- MEBx により、記録が処理されます。
- MEBx により、処理が完了したことを示すメッセージが表示されます。
- IT テクニカルスタッフがコンピュータの電源を切ります。以上の手順により、コンピュータはセットアップ状態となり、Enterprise (エンタープライズ) モード環境のユーザーへ配布する準備が整います。
- 複数のコンピュータがある場合は、手順 5 を繰り返します。

USB ドライブキーのセットアップおよび設定の詳細については、管理コンソールのサブライヤにお問い合わせください。

## USB ドライブキー要件

Intel AMT をセットアップおよび設定するには、USB ドライブキーは次の要件を満たす必要があります。

- 容量が 16 MB 以上であること。
- FAT16 ファイルシステムでフォーマットされていること。
- セクタサイズが 1 KB であること。
- 起動可能でないこと。
- USB ドライブキーで最初に検出されるファイルが `setup.bin` ファイルであること。USB キーには、隠しファイル、削除されたファイル、またはその他のファイルのいずれのファイルも含まれていないことが必要です。

## MEBx インタフェース (Enterprise (エンタープライズ) モード)

Intel® Management Engine BIOS Extension (MEBx) はオプションの ROM モジュールで、Intel から Dell™ へ Dell BIOS に含めて提供されています。MEBx は Dell コンピュータ向けにカスタマイズされています。

Enterprise (エンタープライズ) モード (大企業ユーザー向け) では、セットアップおよび設定用サーバー (SCS) が必要です。SCSは、Intel AMT のセットアップおよび設定を行うアプリケーションをネットワーク上で実行します。また SCS は、MEBx に見られるとおりプロビジョニングサーバーとしても知られています。SCS は通常、独立系ソフトウェアベンダー (ISV) によって提供され、ISV の管理コンソール製品に含まれています。詳細に関しては、管理コンソールのサプライヤにお問い合わせください。

Intel AMT をEnterprise (エンタープライズ) モードでセットアップおよび設定する方法については、次の手順を実行します。

### ME 設定

Intel Management Engine (ME) をターゲットプラットフォームで有効にするには、次の手順を実行します。

□□□ Dell ログ画面で <Ctrl> と <p> を同時に押し、MEBx 画面を表示します。

□□□ **Intel ME Password** (Intel ME パスワード) フィールドで admin と入力します。<Enter> を押します。

パスワードは大文字と小文字が区別されます。

MEBx オプションを変更する前に、デフォルトのパスワードを変更する必要があります。



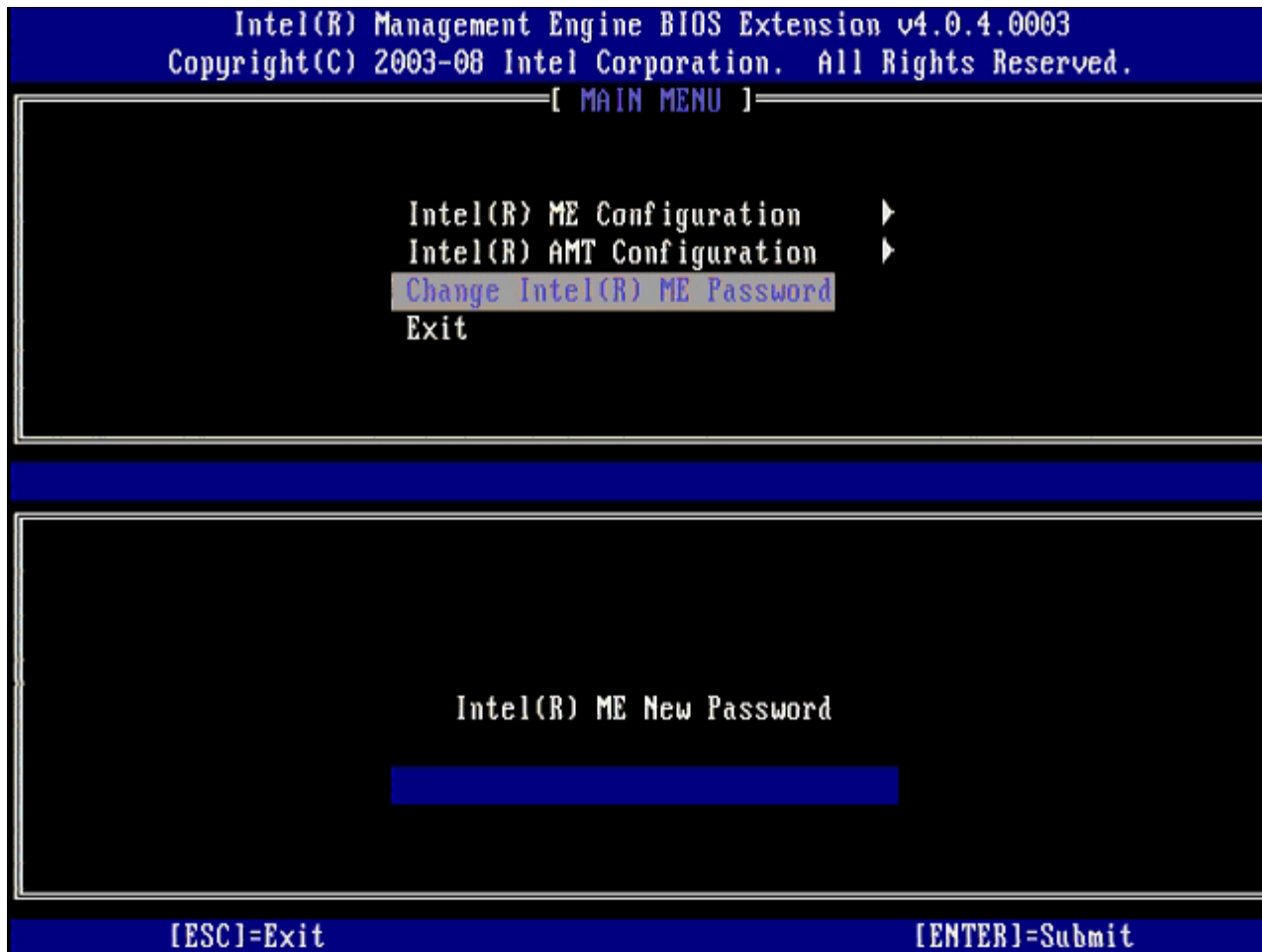
□□□ **Change Intel ME Password** (Intel ME パスワードの変更) を選択します。<Enter> を押します。新しいパスワードを入力し、確認のためもう一度入力します。

新しいパスワードには必ず次の要素を含めます。

- 8 文字
- 大文字 1 文字
- 小文字 1 文字
- 数字 1 文字
- 特殊文字 (英数字以外の !, \$, または ; で、:, ", , は除く)

下線 ( \_ ) およびスペースバーは有効なパスワードですが、パスワードの複雑性を増すものではありません。

□□□ パスワードを変更して、Intel AMT の所有権を設定します。これにより、コンピュータは工場出荷時の状態からセットアップ状態へ移行します。



□□□ **Intel ME Configuration** (Intel ME 設定) を選択して、<Enter> を押します。

**ME Platform Configuration** (ME プラットフォーム設定) では、ME 機能 (電源オプション、ファームウェアアップデート機能など) を設定できます。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ MAIN MENU ]

Intel(R) ME Configuration ▶  
Intel(R) AMT Configuration ▶  
Change Intel(R) ME Password  
Exit

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□ 次のメッセージが表示されたら、<y> を押します。

System resets after configuration change. (設定変更後システムがリセットされます。) Continue (Y/N) . (続行する。(Y/N) )



Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ MAIN MENU ]

Intel(R) ME Configuration ▶  
Intel(R) AMT Configuration ▶  
Change Intel(R) ME Password  
Exit

[ESC]=Exit

[↑↓]=Select

[ENTER]=Access

[Caution]

System resets after configuration changes  
Continue: (Y/N)

次のオプションは **Intel ME State Control** (Intel ME 状態の制御) です。このオプションのデフォルト設定は **Enabled** (有効) です。この設定を **Disabled** (無効) に変更しないでください。Intel AMT を無効にする場合は、[手順 9](#) に従って **Manageability Feature Selection** (管理機能選択) オプションを **None** (なし) に変更します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION ]

Intel(R) ME State Control

Intel(R) ME Firmware Local Update

Intel(R) ME Features Control ▶

Intel(R) ME Power Control ▶

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[ ] DISABLED

[\*] ENABLED

□□□ Intel ME Firmware Local Update (Intel ME ファームウェアのローカルアップデート) を選択します。 <Enter> を押します。

□□□ 次に、Enabled (有効) または Disabled (無効) を選択して <Enter> を押します。

このオプションのデフォルト設定は Disabled (無効) です。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION ]

Intel(R) ME State Control

Intel(R) ME Firmware Local Update

Intel(R) ME Features Control ▶

Intel(R) ME Power Control ▶

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[ ] DISABLED

[\*] ENABLED

□□□ Intel ME Features Control (Intel ME 機能制御) を選択して <Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION ]

Intel(R) ME State Control  
Intel(R) ME Firmware Local Update  
Intel(R) ME Features Control ▶  
Intel(R) ME Power Control ▶  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

次のオプションはManageability Feature Selection（管理機能選択）です。この機能によりプラットフォーム管理モードが設定されます。デフォルト設定は Intel AMT です。

**None**（なし） オプションを選択すると、すべてのリモート管理機能が無効になります。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME FEATURES CONTROL ]

Manageability Feature Selection

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[ ] NONE

[\*] Intel(R) AMT

[ ] ASF

□□□□ Return to Previous Menu (前のメニューに戻る) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME FEATURES CONTROL ]

Manageability Feature Selection

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□□ Intel ME Power Control (Intel ME 電源制御) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION ]

Intel(R) ME State Control  
Intel(R) ME Firmware Local Update  
Intel(R) ME Features Control ▶  
Intel(R) ME Power Control ▶  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

次のオプションはIntel ME ON in Host Sleep States (ホストのスリープ状態時に Intel ME をオン) です。デフォルト設定はMobile: ON in S0 (モバイル: S0 でオン) です。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME POWER CONTROL ]

Intel(R) ME ON in Host Sleep States  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[\*] Mobile: ON in S0

[ ] Mobile: ON in S0, S3/AC

[ ] Mobile: ON in S0, S3/AC, S4-5/AC

[ ] Mobile: ON in S0, ME Wake in S3/AC

[ ] Mobile: ON in S0, ME Wake in S3/AC, S4-5/AC

□□□□ Return to Previous Menu (前のメニューに戻る) を選択して、<Enter> を押します。



Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME POWER CONTROL ]

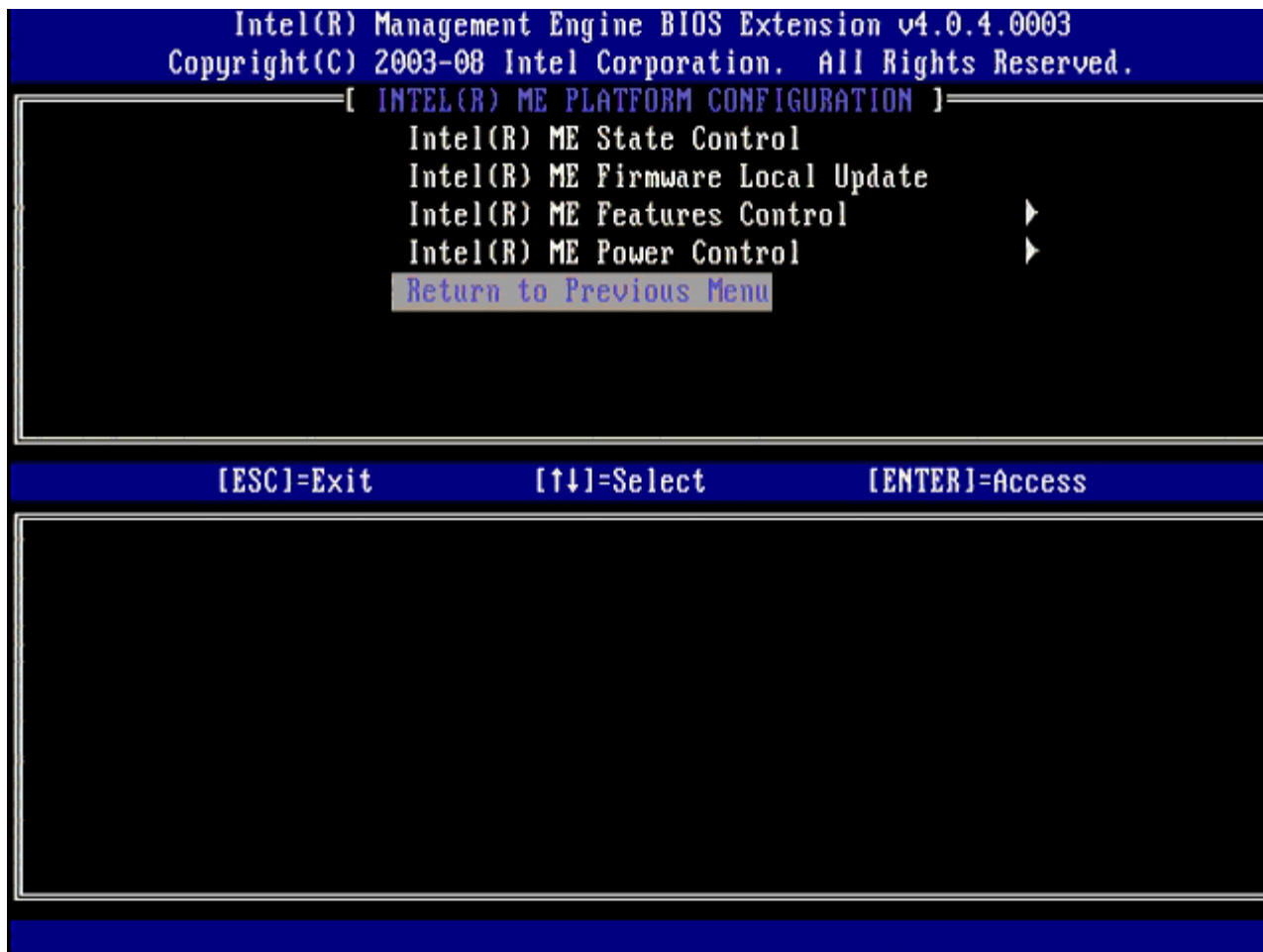
Intel(R) ME ON in Host Sleep States  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□□ Return to Previous Menu (前のメニューに戻る) を選択して、<Enter> を押します。



□□□□ MEBx Setup (MEBx セットアップ) を終了して ME 設定を保存します。

Intel ME Configuration Complete (Intel ME 設定完了) というメッセージが表示され、コンピュータが再起動します。ME 設定の完了後、Intel AMT を設定できます。

## Intel AMT Configuration (Intel AMT設定)

ターゲットプラットフォームで **Intel AMT Configuration** (Intel AMT設定) の設定を有効にするには、次の手順を実行します。

- 初期起動画面で、<Ctrl> と <p>を同時に押して、「Enabling Management Engine for Enterprise Mode (エンタープライズモード用に Management Engine を有効にする)」の[手順 1](#)に示すとおり MEBx 画面を再表示します。
- パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されたら、新しい Intel ME パスワードを入力します。
- **Intel AMT Configuration** (Intel AMT 設定) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ MAIN MENU ]

Intel(R) ME Configuration ▶  
Intel(R) AMT Configuration ▶  
Change Intel(R) ME Password  
Exit

[ESC]=Exit

[↑↓]=Select

[ENTER]=Access

□□□ Host Name (ホスト名) を選択して、<Enter> を押します。

□□□ この Intel AMT マシンの固有の名称を入力して、<Enter> を押します。

ホスト名にはスペースは使用できません。ネットワーク上で重複するホスト名がないことを確認してください。IP アドレスを必要とする任意のアプリケーションに対して、コンピュータの IP アドレスの代わりにホスト名を使用できます。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name

TCP/IP

Provision Model

Setup and Configuration ▶

Un-Provision

SOL/IDE-R

Password Policy

Secure Firmware Update

Computer host name

[ESC]-Exit

[ENTER]-Submit

□□□ TCP/IP を選択します。 <Enter> を押します。

□□□ 次のメッセージが表示されたら、 <n> を押します。

- [DHCP Enable] Disable DHCP (Y/N) ([DHCP 有効]DHCP を無効にする (Y/N) )

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[DHCP Enabled]  
Disable DHCP: (Y/N)

□□□ Domain name (ドメイン名) フィールドにドメイン名を入力します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name

TCP/IP

Provision Model

Setup and Configuration ▶

Un-Provision

SOL/IDE-R

Password Policy

Secure Firmware Update

Domain name

[ESC]-Exit

[ENTER]-Submit

□□□ メニューから **Provision Model** (プロビジョンモデル) を選択し、<Enter> を押します。

□□□□ 次のメッセージが表示されたら、<n> を押します。

- [Enterprise] change to Small Business: (Y/N) ([エンタープライズ] 小企業に変更: (Y/N))

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[Enterprise]

Change to Small Business: (Y/N)

□□□□ メニューから**Setup and Configuration** (セットアップおよび設定) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□□ **Current Provisioning Mode** (現在のプロビジョニングモード) を選択して現在のモードを表示し、<Enter> を押します。

現在のプロビジョニングモードが表示されます。<Enter> または <Esc> を押して終了します。



Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) SETUP AND CONFIGURATION ]

Current Provisioning Mode  
Provisioning Record  
Provisioning Server  
TLS PSK ▶  
TLS PKI ▶  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

Provisioning Mode: NONE

□□□□ メニューから **Provisioning Record** (プロビジョニング記録) を選択して、<Enter> を押します。

画面にはコンピュータの PSK/PKI プロビジョン記録データが表示されます。データが未入力の場合は、MEBx で次のメッセージが表示されます。

Provision Record not present (プロビジョン記録がありません)

データが入力されている場合は、**Provision Record** (プロビジョン記録) にいくつかの [メッセージ](#) が表示されます。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) SETUP AND CONFIGURATION ]

Current Provisioning Mode  
Provisioning Record  
Provisioning Server  
TLS PSK ▶  
TLS PKI ▶  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

Provision Record is not present

□□□□ メニューからProvisioning Server (プロビジョニングサーバー) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) SETUP AND CONFIGURATION ]

Current Provisioning Mode  
Provisioning Record  
Provisioning Server  
TLS PSK ▶  
TLS PKI ▶  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□□ プロビジョニングサーバーの IP アドレスを **Provisioning server address** (プロビジョニングサーバーのアドレス) フィールドに入力して、<Enter> を押します。

デフォルト設定は 0.0.0.0 です。このデフォルト設定が機能するのは、プロビジョニングサーバーを解決できる、プロビジョニングサーバーの IP アドレスに対するエントリが DNS サーバーにある場合だけです。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) SETUP AND CONFIGURATION ]

Current Provisioning Mode  
Provisioning Record  
Provisioning Server  
TLS PSK ▶  
TLS PKI ▶  
Return to Previous Menu

Provisioning server address

0.0.0.0

[ESC]-Exit

[ENTER]-Submit

□□□□ Port number (ポート番号) フィールドにポートを入力して、<Enter> を押します。

デフォルト設定は 0 です。このフィールドをデフォルト設定の 0 のままにしておくと、Intel AMT はポート 9971 からプロビジョニングサーバーにアクセスしようとします。プロビジョニングサーバーが別のポートを使用している場合は、ここに入力します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) SETUP AND CONFIGURATION ]

Current Provisioning Mode

Provisioning Record

Provisioning Server

TLS PSK ▶

TLS PKI ▶

Return to Previous Menu

Port number (0-65535)

0

[ESC]-Exit

[ENTER]-Submit

□□□□ メニューから TLS PSK を選択し、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) SETUP AND CONFIGURATION ]

Current Provisioning Mode  
Provisioning Record  
Provisioning Server  
TLS PSK  
TLS PKI  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□□ 次のオプションは **Set PID and PPS** (PID および PPS の設定) です。

SCS によりコードが生成された後は、PID と PPS を手動で入力するか、または USB キーを使用して入力します。

このオプションは、プロビジョニング ID (PID) とプロビジョニングパスフレーズ (PPS) の入力に使用します。PID は 8 文字、PPS は 32 文字で入力します。4 文字ごとにダッシュが挿入されるため、ダッシュを含めると PID は 9 文字、PPS は 40 文字となります。SCS はこれらのエントリを生成する必要があります。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) TLS PSK CONFIGURATION ]

Set PID and PPS \*\*

Delete PID and PPS \*\*

Return to Previous Menu

Enter PID (e.g. ABCD-1234)

[ESC]-Exit

[ENTER]-Submit

Delete PID and PPS (PID および PPS の削除) オプションは省略します。このオプションは、コンピュータを工場出荷時の設定に戻します。プロビジョニング解除の詳細については、[「デフォルトに戻す」](#)を参照してください。

□□□□ Return to Previous Menu (前のメニューに戻る) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) TLS PSK CONFIGURATION ]

Set PID and PPS \*\*

Delete PID and PPS \*\*

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

\*\* - may cause Intel(R) AMT partial unprovision

□□□□ メニューから TLS PKI を選択し、<Enter> を押します。



Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) SETUP AND CONFIGURATION ]

Current Provisioning Mode  
Provisioning Record  
Provisioning Server  
TLS PSK ▶  
TLS PKI ▶  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□□ メニューから **Remote Configuration Enable/Disable** (リモート設定有効 / 無効) を選択して、<Enter> を押します。

このオプションはデフォルトでは **Disabled** (無効) になっており、ネットワークインフラストラクチャが Certificate Authority (CA、認証機関) をサポートしていない場合は、**Enabled** (有効) に設定できます。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION ]

Remote Configuration Enable/Disable \*\*

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[\*] DISABLED

[ ] ENABLED

\*\* - may cause Intel(R) AMT partial unprovision

□□□ Enabled (有効) になっている場合は、手順 19~21 を参照してください。Enabled (有効) でない場合は、手順 22へ進みます。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION ]

Remote Configuration Enable/Disable \*\*

Manage Certificate Hashes

Set FQDN

Set PKI DNS Suffix

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

\*\* - may cause Intel(R) AMT partial unprovision

次のオプションは **Manage Certificate Hashes** (証明書ハッシュの管理) オプションです。デフォルトでは 4 つのハッシュが設定されています。ハッシュはユーザーの必要に応じて削除したり追加できます。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION ]

Remote Configuration Enable/Disable \*\*  
Manage Certificate Hashes  
Set FQDN  
Set PKI DNS Suffix  
Return to Previous Menu

Hash Name	Active	Default
VeriSign Class 3 Primary CA-G1	[ ]	[*]
VeriSign Class 3 Primary CA-G3	[ ]	[*]
Go Daddy Class 2 CA	[ ]	[*]
Comodo AAA CA	[ ]	[*]
Starfield Class 2 CA	[ ]	[*]

[ESC]=Exit

[INS]=Add

[DEL]=Del

[+]=Active

[ENTER]=View

□□□□ メニューからSet FQDN (FQDN の設定) を選択し、<Enter> を押します。

□□□□ テキストフィールドにプロビジョニングサーバーの FQDN を入力して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION ]

Remote Configuration Enable/Disable \*\*

Manage Certificate Hashes

Set FQDN

Set PKI DNS Suffix

Return to Previous Menu

Enter FQDN of provisioning server

[ESC]-Exit

[ENTER]-Submit

□□□□ メニューから **Set PKI DNS Suffix** (PKI DNS サフィックスの設定) を選択します。<Enter> を押します。

□□□□ テキストフィールドに PKI DNS サフィックスを入力して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION ]

Remote Configuration Enable/Disable \*\*

Manage Certificate Hashes

Set FQDN

Set PKI DNS Suffix

Return to Previous Menu

Enter PKI DNS Suffix

[ESC]-Exit

[ENTER]-Submit

□□□□ Return to Previous Menu (前のメニューに戻る) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION ]

Remote Configuration Enable/Disable \*\*

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

\*\* - may cause Intel(R) AMT partial unprovision

□□□□ Return to Previous Menu (前のメニューに戻る) を選択して、<Enter> を押します。

この操作を行うと、Intel AMT Configuration (Intel AMT 設定) メニューに戻ります。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) SETUP AND CONFIGURATION ]

Current Provisioning Mode

Provisioning Record

Provisioning Server

TLS PSK ▶

TLS PKI ▶

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

**Un-Provision** (設定解除) オプションは省略します。このオプションは、コンピュータを工場出荷時の設定に戻します。設定解除の詳細については、「[デフォルトに戻す](#)」を参照してください。



Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
**Un-Provision**  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□ SOL/IDE-R を選択し、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]=Exit

[↑↓]=Select

[ENTER]=Access

□□□□ 次のメッセージが表示されたら、<y> を押します。

- [Caution] System resets after configuration changes. ([注意] 設定変更後システムがリセットされます。)  
Continue :(Y/N) (続行する： (Y/N) )

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]=Exit

[↑↓]=Select

[ENTER]=Access

[Caution]

System resets after configuration changes  
Continue: (Y/N)

◦ User name & Password (ユーザー名とパスワード)

□□□□ **Enabled** (有効) を選択し、<Enter> を押します。

このオプションを使用して、WebGUI からユーザーとパスワードを追加できます。このオプションが無効になっている場合は、管理者以外は MEBx ヘルモートアクセスできません。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

Username & Password

[ ] DISABLED

[\*] ENABLED

□□□□ Serial Over LAN (シリアルオーバー LAN) (SOL/IDE-R) の場合は、**Enabled** (有効) を選択し、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

Serial Over LAN

[ ] DISABLED

[\*] ENABLED

□□□□ IDE Redirection (IDE リダイレクション) は、Enabled (有効) を選択し、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

IDE Redirection  
[ ] DISABLED  
[\*] ENABLED

次のオプションはSecure Firmware Update (セキュアファームウェアのアップデート) オプションです。デフォルト設定はEnabled (有効) です。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[ ] DISABLED

[\*] ENABLED

Set PRTC (PRTC の設定) は省略します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update  
Set PRTC

Enter PRTC in GMT(UTC) format(YYYY:MM:DD:HH:MM:SS)

[ESC]-Exit

[ENTER]-Submit

次のオプションは **Idle Timeout** (アイドルタイムアウト) オプションです。デフォルト設定は **1** です。このタイムアウトが適用されるのは、ME が Enterprise (エンタープライズ) モードで有効になるよう WoL オプションが選択されている場合だけです。



Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update  
Set PRTC  
Idle Timeout

Timeout Value (1-65535)

1

[ESC]-Exit

[ENTER]-Submit

□□□□ Return to Previous Menu (前のメニューに戻る) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Setup and Configuration ▶

Un-Provision

SOL/IDE-R

Password Policy

Secure Firmware Update

Set PRTC

Idle Timeout

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□□ Exit (終了) を選択し、<Enter>を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ MAIN MENU ]

Intel(R) ME Configuration ▶  
Intel(R) AMT Configuration ▶  
Change Intel(R) ME Password  
Exit

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□□ 次のメッセージが表示されたら、<y> を押します。

Are you sure you want to exit? (終了してもよろしいですか?) (Y/N):

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ MAIN MENU ]

Intel(R) ME Configuration ▶  
Intel(R) AMT Configuration ▶  
Change Intel(R) ME Password  
Exit

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[ CONFIRM EXIT ]

Are you sure you want to exit? (Y/N):

コンピュータが再起動します。コンピュータの電源を切って、電源ケーブルを外します。これでコンピュータはセットアップ状態となり、[展開](#)の準備が整いました。

[目次に戻る](#)

## MEBx インタフェース (SMB モード)

Intel® Management Engine BIOS Extension (MEBx) はオプションの ROM モジュールで、Intel から Dell™ へ Dell BIOS に含めて提供されています。MEBx は Dell コンピュータ向けにカスタマイズされています。

また Dell では、中小企業 (SMB) モードでの Intel AMT のセットアップおよび設定もサポートしています。SMB モードで唯一不要な設定は、**Set PID and PPS** (PID および PPS の設定) オプションです。また **Provision Model** (プロビジョンモデル) オプションは、**Enterprise** (エンタープライズ) の代わりに **Small Business** (小企業) に設定されます。

Intel AMT を SMB モードでセットアップおよび設定する方法については、次の手順を行います。

## ME 設定

ターゲットプラットフォームで Intel Management Engine (ME) の設定を有効にするには、次の手順を行います。

□□□ Dell ログ画面で <Ctrl> と <p> を同時に押して、MEBx 画面を表示します。

□□□ **Intel ME Password** (Intel ME パスワード) フィールドで admin と入力します。<Enter> を押します。パスワードは大文字と小文字が区別されます。

MEBx オプションを変更する前に、デフォルトのパスワードを変更する必要があります。



□□□ **Change Intel ME Password** (Intel ME パスワードの変更) を選択して、<Enter> を押します。

□□□ 新しいパスワードを入力し、確認のためもう一度入力します。

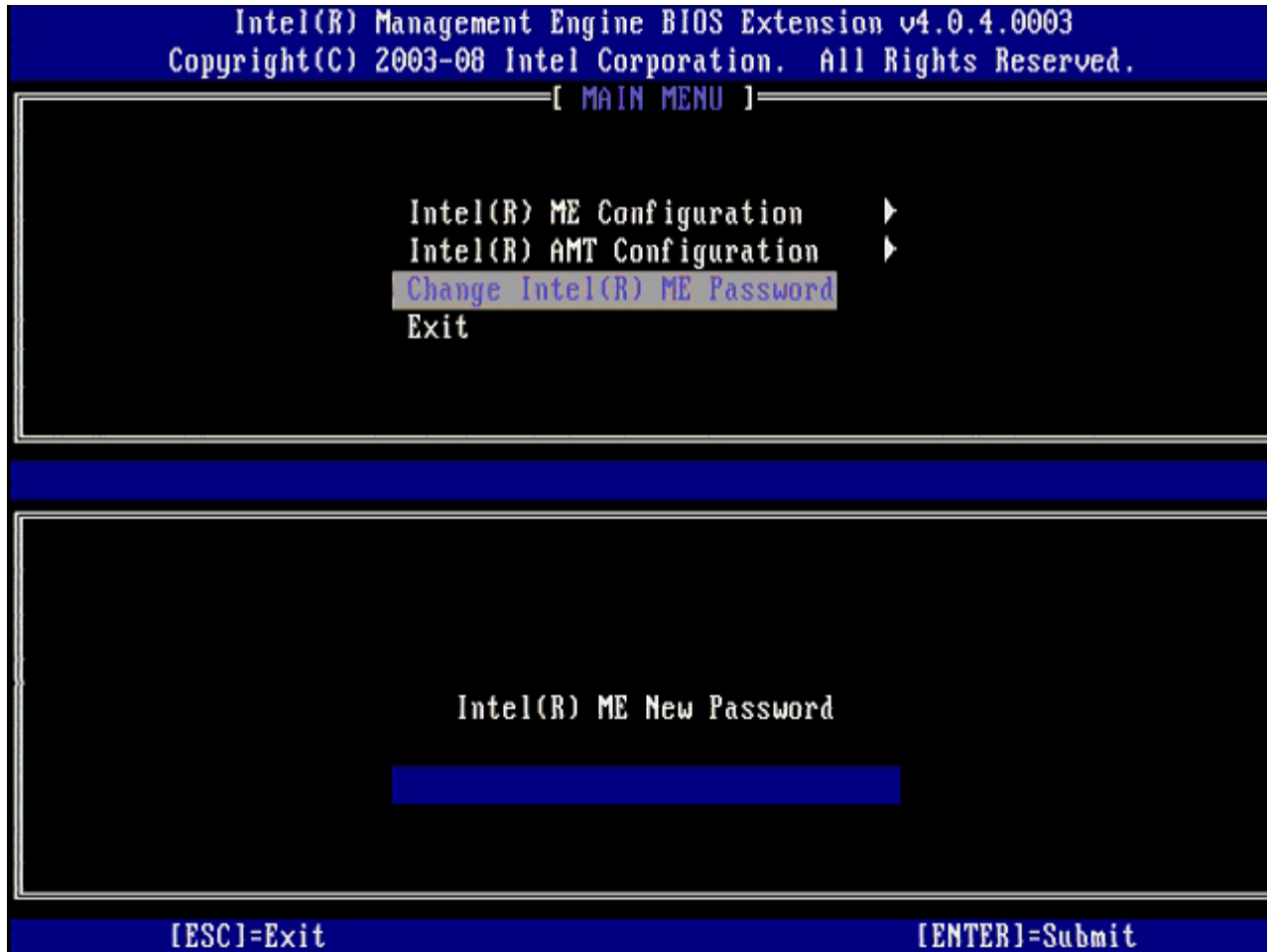
新しいパスワードには必ず次の要素を含めます。

- 8 文字

- 大文字 1 文字
  - 小文字 1 文字
  - 数字 1 文字
  - 特殊文字（英数字以外の !、\$、または ; で、:、"、, は除く）
- 下線 ( \_ ) およびスペースバーは有効なパスワードですが、パスワードの複雑性を増すものではありません。

□□□ パスワードを変更して、Intel AMT の所有権を設定します。

これにより、工場出荷時の状態からセットアップ状態へ移行します。



□□□ **Intel ME Configuration** (Intel ME 設定) を選択して、<Enter> を押します。

**ME Platform Configuration** (ME プラットフォーム設定) では、ME 機能 (電源オプション、ファームウェアアップデート機能など) を設定できます。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ MAIN MENU ]

Intel(R) ME Configuration ▶  
Intel(R) AMT Configuration ▶  
Change Intel(R) ME Password  
Exit

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□ 次のメッセージが表示されたら、<y> を押します。

System resets after configuration change. (設定変更後システムがリセットされます。) Continue (Y/N). (続行する。(Y/N))

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ MAIN MENU ]

Intel(R) ME Configuration ▶  
Intel(R) AMT Configuration ▶  
Change Intel(R) ME Password  
Exit

[ESC]=Exit

[↑↓]=Select

[ENTER]=Access

[Caution]

System resets after configuration changes  
Continue: (Y/N)

次のオプションは **Intel ME State Control** (Intel ME 状態の制御) です。このオプションのデフォルト設定は **Enabled** (有効) です。この設定を **Disabled** (無効) に変更しないでください。Intel AMT を無効にする場合は、この手順の後半で **Manageability Feature Selection** (管理機能選択) オプションを **None** (なし) に変更します。



Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION ]

Intel(R) ME State Control

Intel(R) ME Firmware Local Update

Intel(R) ME Features Control ▶

Intel(R) ME Power Control ▶

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[ ] DISABLED

[\*] ENABLED

□□□ Intel ME Firmware Local Update (Intel ME ファームウェアのローカルアップデート) を選択して、<Enter> を押します。

□□□ Enabled (有効) または Disabled (無効) を選択して、<Enter> を押します。

このオプションのデフォルト設定は Disabled (無効) です。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION ]

Intel(R) ME State Control

Intel(R) ME Firmware Local Update

Intel(R) ME Features Control ▶

Intel(R) ME Power Control ▶

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[ ] DISABLED

[\*] ENABLED

□□□□ Intel ME Features Control (Intel ME 機能制御) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION ]

Intel(R) ME State Control  
Intel(R) ME Firmware Local Update  
Intel(R) ME Features Control ▶  
Intel(R) ME Power Control ▶  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

次のオプションは **Manageability Feature Selection** (管理機能選択) です。この機能によりプラットフォーム管理モードが設定されます。デフォルト設定は **Intel AMT** です。**None** (なし) オプションを選択すると、すべてのリモート管理機能が無効になります。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME FEATURES CONTROL ]

Manageability Feature Selection

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[ ] NONE

[\*] Intel(R) AMT

[ ] ASF

□□□□ Return to Previous Menu (前のメニューに戻る) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME FEATURES CONTROL ]

Manageability Feature Selection

Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□□ Intel ME Power Control (Intel ME電源制御) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION ]

Intel(R) ME State Control  
Intel(R) ME Firmware Local Update  
Intel(R) ME Features Control ▶  
Intel(R) ME Power Control ▶  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

次のオプションは **Intel ME ON in Host Sleep States** (ホストのスリープ状態時に Intel ME をオン) です。デフォルト設定は **Mobile: ON in S0** (モバイル: S0 でオン) です。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME POWER CONTROL ]

Intel(R) ME ON in Host Sleep States  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[\*] Mobile: ON in S0

[ ] Mobile: ON in S0, S3/AC

[ ] Mobile: ON in S0, S3/AC, S4-5/AC

[ ] Mobile: ON in S0, ME Wake in S3/AC

[ ] Mobile: ON in S0, ME Wake in S3/AC, S4-5/AC

□□□□ Return to Previous Menu (前のメニューに戻る) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) ME POWER CONTROL ]

Intel(R) ME ON in Host Sleep States  
Return to Previous Menu

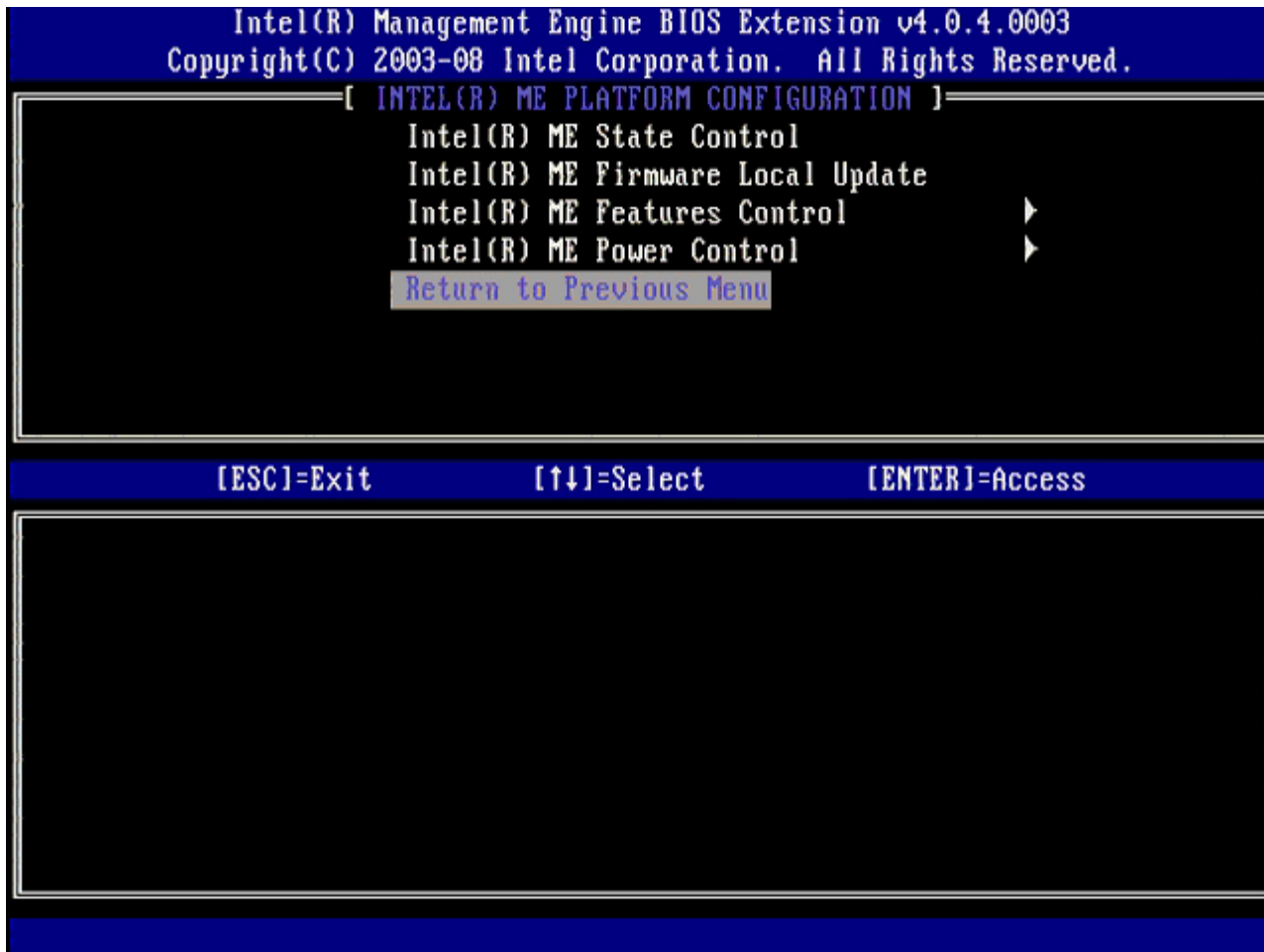
[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□□ Return to Previous Menu (前のメニューに戻る) を選択して、<Enter> を押します。





□□□□ MEBx Setup (MEBx セットアップ) を終了して ME 設定を保存します。

Intel ME Configuration Complete (Intel ME 設定完了) というメッセージが表示され、コンピュータが再起動します。ME 設定の完了後、Intel AMT を設定できます。

## Intel AMT Configuration (Intel AMT 設定)

### Intel AMT を SMB モードで有効にする

□□□ 初期起動画面で、<Ctrl> と <p> を同時に押して、MEBx 画面を再表示します。

□□□ パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されたら、新しい Intel ME パスワードを入力します。

□□□ **Intel AMT Configuration** (Intel AMT 設定) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ MAIN MENU ]

Intel(R) ME Configuration ▶  
Intel(R) AMT Configuration ▶  
Change Intel(R) ME Password  
Exit

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□ Host Name (ホスト名) を選択して、<Enter> を押します。

□□□ この Intel AMT マシンの一意の名称を入力して、<Enter> を押します。

ホスト名にはスペースは使用できません。ネットワーク上で重複するホスト名がないことを確認してください。IP アドレスを必要とする任意のアプリケーションに対して、コンピュータの IP アドレスの代わりにホスト名を使用できます。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name

TCP/IP

Provision Model

Setup and Configuration ▶

Un-Provision

SOL/IDE-R

Password Policy

Secure Firmware Update

Computer host name

[ESC]-Exit

[ENTER]-Submit

□□□ TCP/IP を選択し、<Enter> を押します。

□□□ 次のメッセージが表示されたら、<n> を押します。

- [DHCP Enable] Disable DHCP (Y/N) ( [DHCP 有効] DHCP を無効にする (Y/N) )

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[DHCP Enabled]  
Disable DHCP: (Y/N)

□□□ フィールドにドメイン名を入力します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name

TCP/IP

Provision Model

Setup and Configuration ▶

Un-Provision

SOL/IDE-R

Password Policy

Secure Firmware Update

Domain name

[ESC]-Exit

[ENTER]-Submit

□□□ メニューから **Provision Model** (プロビジョンモデル) を選択し、<Enter> を押します。

□□□□ 次のメッセージが表示されたら、<y> を押します。

- [Enterprise] change to Small Business: (Y/N) ( [エンタープライズ] 小企業に変更: (Y/N) )

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Setup and Configuration ▶  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update

[ESC]=Exit

[↑↓]=Select

[ENTER]=Access

[Enterprise]  
Change to Small Business: (Y/N)

□□□□ **Un-Provision** (プロビジョン解除) オプションは省略してください。このオプションは、コンピュータを工場出荷時の設定に戻します。プロビジョン解除の詳細については、「[デフォルトに戻す](#)」を参照してください。

□□□□ **SOL/IDE-R** を選択します。<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update  
Set PRTC

[ESC]=Exit

[↑↓]=Select

[ENTER]=Access

□□□□ 次のメッセージが表示されたら、<y> を押します。

- [Caution] System resets after configuration changes. ( [注意] 設定変更後システムがリセットされます。 )  
Continue: (Y/N) (続行する: (Y/N) )

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update  
Set PRTC

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[Caution]

System resets after configuration changes  
Continue: (Y/N)

□□□□ Username & Password (ユーザー名とパスワード) で Enabled (有効) を選択して、<Enter> を押します。

このオプションを使用して、WebGUI からユーザーとパスワードを追加できます。このオプションが無効になっている場合は、管理者以外は MEBx ヘルモートアクセスできません。



Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Un-Provision  
**SOL/IDE-R**  
Password Policy  
Secure Firmware Update  
Set PRTC

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

Username & Password

[ ] DISABLED

**[\*] ENABLED**

□□□□ Serial Over LAN (シリアルオーバー LAN) の場合は、Enabled (有効) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Un-Provision  
**SOL/IDE-R**  
Password Policy  
Secure Firmware Update  
Set PRTC

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

Serial Over LAN

[ ] DISABLED

**[\*] ENABLED**

□□□□ IDE Redirection (IDE リダイレクション) の場合は、Enabled (有効) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Un-Provision  
**SOL/IDE-R**  
Password Policy  
Secure Firmware Update  
Set PRTC

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

IDE Redirection  
[ ] DISABLED  
**[\*] ENABLED**

次のオプションは **Secure Firmware Update** (セキュアファームウェアのアップデート) オプションです。デフォルト設定は **Enabled** (有効) です。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update  
Set PRTC

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[ ] DISABLED

[\*] ENABLED

□□□□ Set PRTC (PRTC の設定) は省略してください。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Host Name  
TCP/IP  
Provision Model  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update  
Set PRTC

Enter PRTC in GMT(UTC) format(YYYY:MM:DD:HH:MM:SS)

[ESC]=Exit

[ENTER]=Submit

次のオプションは **Idle Timeout** (アイドルタイムアウト) オプションです。デフォルト設定は **1** です。このタイムアウトが適用されるのは、ME が Enterprise (エンタープライズ) モードで有効になるよう、プロセスの [Intel ME ON in Host Sleep States](#) (ホストのスリープ状態時に Intel ME をオン) 画面に対して WoL オプションが選択されている場合だけです。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

TCP/IP  
Provision Model  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update  
Set PRTC  
Idle Timeout

Timeout Value (1-65535)

1

[ESC]-Exit

[ENTER]-Submit

□□□□ Return to Previous Menu (前のメニューに戻る) を選択して、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ INTEL(R) AMT CONFIGURATION ]

Provision Model  
Un-Provision  
SOL/IDE-R  
Password Policy  
Secure Firmware Update  
Set PRTC  
Idle Timeout  
Return to Previous Menu

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□□ Exit (終了) を選択し、<Enter> を押します。

Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ MAIN MENU ]

Intel(R) ME Configuration ▶  
Intel(R) AMT Configuration ▶  
Change Intel(R) ME Password  
Exit

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

□□□□ 次のメッセージが表示されたら、<y> を押します。

Are you sure you want to exit? (終了してもよろしいですか?) (Y/N):



Intel(R) Management Engine BIOS Extension v4.0.4.0003  
Copyright(C) 2003-08 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[ MAIN MENU ]

Intel(R) ME Configuration ▶  
Intel(R) AMT Configuration ▶  
Change Intel(R) ME Password  
Exit

[ESC]-Exit

[↑↓]-Select

[ENTER]-Access

[ CONFIRM EXIT ]

Are you sure you want to exit? (Y/N):

□□□□ コンピュータの再起動後、コンピュータの電源を切って、電源ケーブルを外します。

これでコンピュータはセットアップ状態となり、[展開](#)の準備が整いました。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

## システムの展開

コンピュータをユーザーに展開する準備ができれば、コンピュータを電源に接続してネットワークに接続します。内蔵 Intel® 82566DM NIC を使用します。Intel Active Management Technology (Intel AMT) はこれ以外の NIC では動作しません。

コンピュータは、電源を入れるとすぐに、セットアップおよび設定用サーバー (SCS) を検索します。このサーバーが見つかり、Intel AMT 対応コンピュータがこのサーバーにハローメッセージを送信します。

セットアップおよび設定用サーバーの検索が自動的に正しく実行されるためには、DHCP と DNS が使用可能であることが必要です。DHCP と DNS が使用できない場合は、セットアップおよび設定用サーバー (SCS) の IP アドレスを、Intel AMT 対応コンピュータの MEBx に手動で入力する必要があります。

ハローメッセージには次の情報が含まれます。

- プロビジョニング ID (PID)
- 汎用一意識別子 (UUID)
- IP アドレス
- ROM およびファームウェア (FW) のバージョン番号

ハローメッセージはエンドユーザーには見えません。コンピュータがメッセージをブロードキャストしていることを知らせるフィードバックメカニズムはありません。SCS は、TLS がサポートされている場合は、ハローメッセージ内の情報を使用して、TLS Pre-Shared キー (PSK) の暗号スイートを使用する Intel AMT 対応コンピュータへの Transport Layer Security (TLS) 接続を開始します。

SCS は、PID を使用してプロビジョニングサーバーデータベースのプロビジョニングパスフレーズ (PPS) を検索し、PPS や PID を使用して、TLS Pre-Master Secret を生成します。TLS はオプションです。安全で暗号化されたトランザクションを行うには、インフラストラクチャがある場合は TLS を使用します。TLS を使用しない場合、相互認証には HTTP Digest が使用されます。HTTP Digest は TLS ほど安全ではありません。SCS は、ユーザー名とパスワードを使って Intel AMT コンピュータにログインし、次の必須データ項目のプロビジョンを行います。

- 新しい PPS と PID (今後のセットアップおよび設定のため)
- TLS 証明書
- プライベートキー
- 現在の日付と時刻
- HTTP Digest 信用証明書
- HTTP Negotiate 信用証明書

コンピュータはセットアップ状態からプロビジョニングされた状態となり、Intel AMT が完全に動作可能になります。コンピュータがプロビジョニングされた状態になると、リモート管理が可能になります。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

## オペレーティングシステムのドライバ

デバイスマネージャで不明なデバイスを削除するために、オペレーティングシステムに 2 種類のドライバをインストールする必要があります。これらのドライバについて以下に説明します。

### SOL/LMS ドライバ

Intel® AMT Serial-Over-LAN (SOL) / Local Manageability Service (LMS) ドライバは、support.jp.dell.com および ResourceCD のチップセットドライバから入手できます。このドライバには Intel AMT SOL/LMS というラベルが付いています。ドライバを入手したら、ファイルを実行します。ファイルが解凍され、ユーザーにインストールプロセスを続行するようプロンプトが表示されます。

SOL/LMS ドライバのインストール後、**PCI Serial Port** (PCIシリアルポート) エントリは、**Intel Active Management Technology - SOL (COM3)** エントリになります。

### HECI ドライバ

Intel AMT Host Embedded Controller Interface (HECI) ドライバは、support.jp.dell.com および ResourceCD のチップセットドライバから入手できます。このドライバには Intel AMT HECI というラベルが付いています。ドライバを入手したら、ファイルを実行します。ファイルが解凍され、ユーザーにインストールプロセスを続行するようプロンプトが表示されます。

HECI ドライバのインストール後、**PCI Simple Communications Controller** (PCI シンプルコミュニケーションコントローラ) エントリは **Intel Management Engine Interface** (Intel Management Engine インタフェース) エントリになります。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

# Intel AMT WebGUI

Intel® AMT WebGUI は、Web ブラウザをベースとしたインタフェースであり、制限付きでリモートコンピュータを管理できます。WebGUI は、多くの場合、Intel AMT のセットアップおよび設定がコンピュータで正しく行われたかどうかを確認するためのテストツールとして使用されます。リモートコンピュータと WebGUI を実行するホストコンピュータ間でリモート接続が正常に行われた場合、リモートコンピュータ上で Intel AMT が正しくセットアップおよび設定されていることとなります。

Intel AMT WebGUI へアクセスするには、Internet Explorer® アプリケーションまたは Netscape® アプリケーションなどの Web ブラウザを使用します。

制限付きのリモートコンピュータ管理には次の項目が含まれます。

- ハードウェアの在庫管理
- イベントのログ
- リモートコンピュータのリセット
- ネットワーク設定の変更
- 新しいユーザーの追加

SMB でセットアップおよび設定されたコンピュータの場合、WebGUI サポートは、デフォルトで有効になっています。Enterprise (エンタープライズ) でセットアップおよび設定されたコンピュータの場合、WebGUI サポートは、セットアップおよび設定用サーバーによって決定されます。WebGUI インタフェースの使い方については、[Intel AMT の Web サイト](#)を参照してください。

旧バージョンの WebGUI インタフェースは、『[Intel AMT Small Business Administrator's Guide](#)』の **Using the Web Browser Interface** (4ページ) に掲載されています。

次の手順に従い、セットアップおよび設定済みのコンピュータで Intel AMT WebGUI に接続します。

□□□ Intel AMT のセットアップおよび設定の完了した Intel AMT 対応のコンピュータの電源を入れます。

□□□ Intel AMT コンピュータと同じサブネット上にある管理コンピュータなど、別のコンピュータから Web ブラウザを起動します。

□□□ MEBx および Intel AMT 対応コンピュータのポートで指定されている IP アドレスに接続します。(例: `http://ip_address:16992` または `http://192.168.2.1:16992`)

- デフォルトのポートは 16992 です。Enterprise (エンタープライズ) モードでセットアップおよび設定されたコンピュータの Intel AMT WebGUI には、ポート 16993 と `https://` を使用して接続します。
- DHCP が使用されている場合は、ME の完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用します。FQDN はホスト名とドメインの組み合わせです。(例: `http://host_name:16992` または `http://system1:16992`)

管理コンピュータは、Intel AMT 対応コンピュータに TCP 接続を行い、Intel AMT 対応コンピュータの Management Engine 内にあり、Intel AMT が組み込まれた Web ページの最上位レベルにアクセスします。

ユーザー名とパスワードを入力します。デフォルトのユーザー名は `admin` で、パスワードは MEBx での Intel AMT セットアップ時に設定されたものです。コンピュータ情報を確認し、必要に応じて変更します。WebGUI でリモートコンピュータの MEBx パスワードを変更できません。WebGUI またはリモートコンソールでパスワードを変更すると、2つのパスワードが作成されます。新しいパスワードは、リモート MEBx パスワードと呼ばれ、WebGUI またはリモートコンソールをリモートで使用する場合にのみ機能します。ローカルアクセスに使用されるローカルの MEBx パスワードは変更されません。MEBx にローカルおよびリモートでアクセスするには、ローカルおよびリモート双方の MEBx パスワードを記憶しておく必要があります。Intel AMT セットアップで MEBx パスワードが最初に設定された場合、パスワードはローカルおよびリモートのどちらのパスワードとしても使用できます。リモートパスワードを変更した場合、パスワードは同期されていません。Exit (終了) を選択します。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

## AMT リダイレクションの概要

Intel® AMT により、管理されているクライアントの起動および電源状態に関係なく、管理されているクライアントから管理コンソールへのシリアル通信と IDE 通信をリダイレクトできます。クライアントで必要なのは、Intel AMT 機能、電源への接続、ネットワーク接続だけです。Intel AMT は、TCP/IP 経由の Serial Over LAN (シリアルオーバー LAN、SOL、テキスト / キーボードリダイレクション) と IDE Redirection (IDER、CD-ROM リダイレクション) をサポートしています。

### Serial Over LAN (シリアルオーバー LAN) の概要

Serial Over LAN (シリアルオーバー LAN、SOL) とは、標準的なネットワーク接続を経由してシリアルポート通信をエミュレートする機能です。SOL は、通常シリアルポート接続が必要とされる大部分の管理アプリケーションに使用できます。

Intel AMT リダイレクションライブラリを使用して、Intel AMT 対応クライアントと管理コンソールとの間でアクティブな SOL セッションを確立すると、クライアントのシリアルトラフィックは LAN 接続経由で Intel AMT を介してリダイレクトされ、管理コンソールで使用できるようになります。同様に、管理コンソールは、クライアントのシリアルポートを介して受信されるシリアルデータを LAN 接続経由で送信できます。

### IDE Redirection (IDE リダイレクション) の概要

IDE Redirection (IDE リダイレクション、IDER) では、標準的なネットワーク接続経由で、IDE CD ドライブまたはレガシーフロッピー、または LS-120 ドライブをエミュレートできます。IDER により、管理マシンはローカルドライブのいずれか 1 つを、管理されているクライアントへネットワークを通じて接続できます。IDER セッションの確立後は、管理されているクライアントは、クライアント自体の IDE チャンネルにリモートデバイスが直接接続されているかのように、リモートデバイスを使用できます。これは、応答のないコンピュータをリモートで起動する際に便利です。IDER は、DVD フォーマットをサポートしていません。

たとえば、IDER を使用して、オペレーティングシステムが破損しているクライアントを起動します。まず最初に、有効な起動ディスクを管理コンソールのディスクドライブにロードします。次に、管理コンソールが IDER TCP セッションを開始すると、このドライブが引数として渡されます。Intel AMT は、このデバイスの電源または起動状態に関係なく、このデバイスをクライアント上の仮想 IDE デバイスとして登録します。クライアントの BIOS を仮想 IDE デバイスから起動する設定が必要な場合があるので、SOL および IDER の両方を使用します。

[目次に戻る](#)

[目次に戻る](#)

## トラブルシューティング

ここでは、Intel® AMT 設定時に問題が発生した場合の基本的なトラブルシューティング手順をいくつか説明します。詳しいトラブルシューティングオプションについては、必ず DSN をチェックしてください。

### デフォルトに戻す

デフォルトに戻す操作は、プロビジョン解除とも呼ばれます。Intel AMT がセットアップおよび設定されたコンピュータは、Intel AMT Configuration (Intel AMT 設定) 画面と **Un-Provision** (プロビジョン解除) オプションを使用してプロビジョンを解除できます。

次の手順に従って、コンピュータのプロビジョンを解除します。

□□□ **Un-Provision** (プロビジョン解除) を選択した後、**Full Un-provision** (完全なプロビジョン解除) を選択します。

完全なプロビジョン解除は、SMB モードでプロビジョニングされたコンピュータで実行できます。このオプションにより、Intel AMT のすべての設定が工場出荷時のデフォルトにリセットされますが、ME の設定やパスワードはリセットされません。完全なプロビジョン解除および部分的プロビジョン解除は、Enterprise (エンタープライズ) モードで設定されたコンピュータで実行できます。部分的プロビジョン解除では、PID と PPS を除くすべての Intel AMT 設定が工場出荷時のデフォルトにリセットされます。部分的プロビジョン解除では、ME 設定やパスワードはリセットされません。

約 1 分後に、プロビジョン解除に関するメッセージが表示されます。プロビジョン解除の完了後、Intel AMT Configuration (Intel AMT 設定) 画面に制御が戻ります。コンピュータはデフォルトの Enterprise (エンタープライズ) モードに設定されるので、**Provisioning Server** (プロビジョニングサーバー)、**Set PID and PPS** (PID および PPS の設定)、および **Set PRTC** (PRTC の設定) オプションは再度使用可能になります。

□□□ **Return to previous menu** (前のメニューに戻る) を選択します。

□□□ **Exit** (終了) を選択し、<y> を押します。

コンピュータが再起動します。

### ファームウェアのフラッシュ

ファームウェアをフラッシュして、新しいバージョンの Intel AMT にアップグレードします。自動フラッシュ機能を無効にするには、MEBx インタフェースで **Secure Firmware Update** (セキュアファームウェアのアップデート) 設定の **Disabled** (無効) を選択します。この設定を無効にすると、BIOS のフラッシュ時にファームウェアのエラーメッセージが表示されます。

ファームウェアは旧バージョンまたはインストールされている現在のバージョンにはフラッシュできません。使用可能な場合、ファームウェアのフラッシュ機能は support.jp.dell.com からダウンロードできます。

## Serial-Over-LAN (SOL) (シリアルオーバー LAN (SOL)) / IDE Redirection (IDE-R) (IDE リダイレクション (IDE-R))

IDE-R および SOL を使用できない場合は、次の手順に従います。

□□□ 初期起動画面で、<Ctrl> と <p> を同時に押して、MEBx 画面を表示します。

□□□ パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されたら、新しい Intel ME パスワードを入力します。

□□□ **Intel AMT Configuration** (Intel AMT 設定) を選択して、<Enter> を押します。

□□□ **Un-Provision** (プロビジョン解除) を選択して、<Enter> を押します。

□□□ **Full Unprovision** (完全なプロビジョン解除) を選択して、<Enter> を押します。

□□□ [ここ](#)に表示される **Intel AMT Configuration** (Intel AMT 設定) メニューオプションで設定値を再設定します。

## エラーメッセージ - Not able to enter the MEBx on POST (POST 時に MEBx を起動できません)

MEBx では、DIMM A スロットを使用することが要求され、使用しなかった場合は、POST 時に次のメッセージが表示され、MEBx インタフェースを起動できません。

Bad ME memory configuration (不正な ME メモリ設定)

DIMM A はキーボードの下にあります。このスロットへのアクセス方法については、システムマニュアルを参照してください。

[目次に戻る](#)

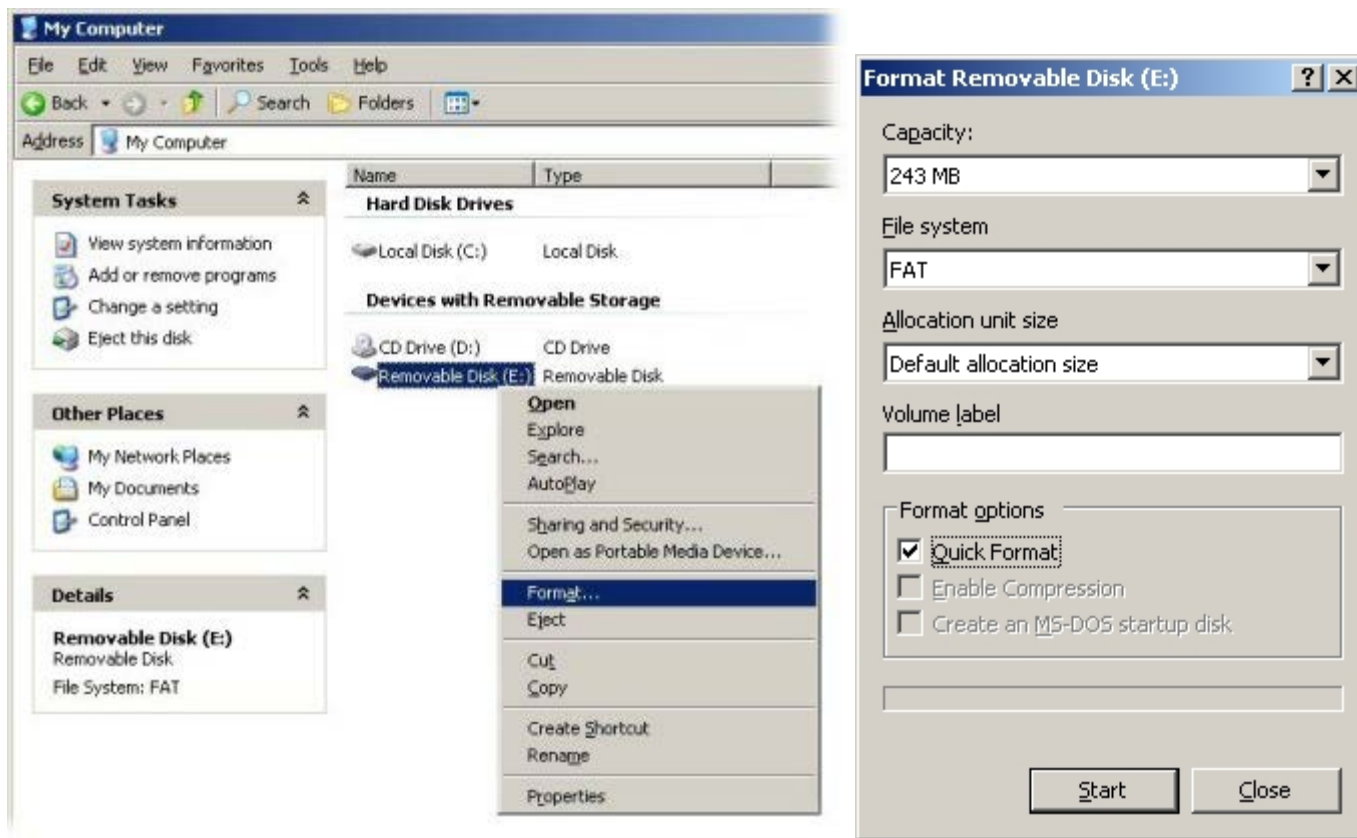
## USB でのセットアップおよび設定

デフォルトで提供されるコンソールパッケージは、Dell™ Client Management (DCM) アプリケーションです。本項では、DCM パッケージを使用して Intel® AMT をセットアップおよび設定する手順を説明します。本ドキュメントで既に説明したとおり、上記以外の複数のパッケージがサードパーティベンダーから提供されています。

このプロセスを開始する前に、コンピュータを設定して DNS サーバーから認識されることが必要です。また、USB ストレージデバイスも必要であり、「Using a USB Device (USB デバイスの使い方)」のページにリストされている要件に準拠している必要があります。

管理ソフトウェアはその性質上、必ずしも動的またはリアルタイムではありません。実際、コンピュータに再起動などの命令を出す場合、再度その命令を実行すると、正常に動作するというケースがあります。

USB デバイスを、FAT16 ファイルシステムを使用し、ボリュームラベルなしでフォーマットしておきます。



デスクトップアイコンをダブルクリックするか、Start (スタート) メニューから Altiris® Dell Client Manager アプリケーションを開きます。



左のナビゲーションメニューから **AMT Quick Start** (AMT クイックスタート) を選択して、Altiris Console を開きます。



Altiris Quick Start Console - Windows Internet Explorer

http://altirisbox.tivpro.local/Altiris/NS/QuickStart.aspx?ConsoleGuid=99814d8b-416f-4c01-8add-e2f1d9c74acf

Altiris Quick Start Console

# DELL™ Dell Client Manager *Standard*

altiris

## Dell Client Manager *Standard*



### Welcome

Welcome to Dell Client Manager Standard. This hardware management solution lets you manage your Dell Precision workstations, OptiPlex desktops and Latitude notebooks from a remote management console. Management capabilities for certain older models as well as Dell Inspiron notebooks and Dimension desktops are limited to discovery only. See the Product Guide for a complete list of supported models. Dell Client Manager Standard includes a 90 day license. If the license is allowed to expire, inventory functions will cease functioning. To obtain a free, unlimited license you must register your product. Once you have obtained your unlimited license you will need to install it. [Click here to install a license.](#)

### Getting Started

**Quick Start Tasks.** If you've already installed the Altiris management framework - Altiris Notification Server plus management agents on the systems you wish to manage - you are ready to enable hardware management on your qualified Dell client systems by following the links in the Enable Hardware Management section at the top of the quick start task menu, on the left. Clicking any link on the quick start task menu opens the target task, policy, or report in this window. Click the View Report button on any of the five hardware management task pages to learn the status of the task. Please note that, depending upon your Notification Server configuration settings and other factors, these reports may take some time to begin returning data the first time you enable the policy or task that is being reported on.

**First Time Setup.** If you've just installed Altiris Notification Server for the first time, there are a few things you need to do first before you can perform Dell Client Manager tasks. Links to these tasks are found under the Getting Started section of the quick start task menu. Also, depending upon your environment and management preferences, you may want to consider adjusting some Notification Server configuration options to better suit your needs. [Learn more...](#)

- Getting Started
  - Discover Manageable Resources
  - Install the Altiris Agent
  - Configure Altiris Agent settings
- Enable Hardware Management
  - Discover Dell Client Systems
  - Configure Agents for 32-bit Hardware Management
  - Configure Agents for 64-bit Hardware Management
  - View Client Systems Discovery Results
  - View Client Systems Configured for Hardware Management
- Hardware Management Tasks
  - Scan for Inventory Data
  - Scan for Current BIOS Settings
  - Configure BIOS Settings
  - Upgrade BIOS Version
  - Set Monitoring and Alerts
- ASF and AMT Setup and Tasks
  - ASF Quick Start
  - AMT Quick Start
- Summaries
  - Dell Client Discovery and Installation Summary
  - BIOS Configuration
  - BIOS Upgrades
- Reports
  - Dell Client Manager Agent

<+> をクリックして、Intel AMT Getting Started (はじめに) セクションを展開します。

Altiris Console 6.5 - Windows Internet Explorer

http://altirisbox.trvpro.local/Altiris/Console/Default.aspx?ConsoleGuid=3faa8b67-250b-42ad-8186-fe2f49a9e7078&ViewGuid=...

altiris console altirisbox.trvpro.local - TRVPRO\Administrator

Home View Manage Tools Reports Configure Help >

Out of Band Management  
Alert Standard Format Getting Started  
Collections  
Configuration  
Intel® AMT Getting Started  
Reports  
Tasks

Intel® AMT Getting Started

Name	Type	Description	Modified By	Modified Date
Section 1. Provisioning	Folder		TRVPRO\Administrator	6/14/2007 1:17:14 PM
Section 2. Intel® AMT Tasks	Folder		TRVPRO\Administrator	6/14/2007 1:17:13 PM

Rows: 1 to 2 of 2  
Page: 1 of 1  
Rows per page: All

Done Internet 100%

<+> をクリックして、Section 1.Provisioning（セクション1. プロビジョニング）セクションを展開します。

Altiris Console 6.5 - Windows Internet Explorer

http://altirisbox.trvpro.local/Altiris/Console/Default.aspx?ConsoleGuid=3faa8b67-250b-42ad-8186-fe2f49a9e7078&ViewGuid=...

altiris console altirisbox.trvpro.local - TRVPRO\Administrator

Home View Manage Tools Reports Configure Help

Out of Band Management  
Alert Standard Format Getting Started  
Collections  
Configuration  
Intel® AMT Getting Started  
Section 1. Provisioning  
Section 2. Intel® AMT Tasks  
Reports  
Tasks

Intel® AMT Getting Started

Name	Type	Description	Modified By	Modified Date
Section 1. Provisioning	Folder		TRVPRO\Administrator	6/14/2007 1:17:14 PM
Section 2. Intel® AMT Tasks	Folder		TRVPRO\Administrator	6/14/2007 1:17:13 PM

Rows: 1 to 2 of 2  
Page: 1 of 1  
Rows per page: All

Done Internet 100%

<+> をクリックして、Basic Provisioning (without TLS) (基本プロビジョニング (TLS なし)) セクションを展開します。

The screenshot shows the Altiris Console 6.5 web interface. The left sidebar contains a tree view with the following items:

- Out of Band Management
  - Alert Standard Format Getting Started
  - Collections
  - Configuration
  - Intel® AMT Getting Started
    - Section 1. Provisioning
      - Basic Provisioning (without TLS)
      - Enable Security (TLS)
    - Section 2. Intel® AMT Tasks
  - Reports
  - Tasks

The main content area displays a table titled "Intel® AMT Getting Started" with the following data:

Name	Type	Description	Modified By	Modified Date
Section 1. Provisioning	Folder		TRVPRO\Administrator	6/14/2007 1:17:14 PM
Section 2. Intel® AMT Tasks	Folder		TRVPRO\Administrator	6/14/2007 1:17:13 PM

At the bottom of the table, it indicates "Rows: 1 to 2 of 2" and "Page: 1 of 1".

**Step 1. Configure DNS** (手順1. DNS の設定) を選択します。

帯域外管理ソリューションがインストールされた通知サーバーを「プロビジョンサーバー」として DNS に登録しておく必要があります。

The screenshot shows the Altiris Console 6.5 web interface in Internet Explorer. The left sidebar contains a tree view with the following structure:

- Out of Band Management
  - Alert Standard Format Getting Started
  - Collections
  - Configuration
  - Intel AMT Getting Started
    - Section 1. Provisioning
      - Basic Provisioning (without TLS)
        - Step 1. Configure DNS
        - Step 2. Discover Capabilities
        - Step 3. View Intel AMT Capable Computers
        - Step 4. Create Profile
        - Step 5. Generate Security Keys
        - Step 6. Configure Automatic Profile Assignments
        - Step 7. Monitor Provisioning Process
        - Step 8. Monitor Profile Assignments
      - Enable Security (TLS)
    - Section 2. Intel AMT Tasks
    - Reports
    - Tasks

The main content area is titled "Intel® AMT Getting Started" and contains a table with the following data:

Name	Type	Description	Modified By	Modified Date
Section 1. Provisioning	Folder		TRVPRO\Administrator	6/14/2007 1:17:14 PM
Section 2. Intel® AMT Tasks	Folder		TRVPRO\Administrator	6/14/2007 1:17:13 PM

At the bottom of the table, it indicates "Rows: 1 to 2 of 2" and "Page: 1 of 1". The status bar at the bottom of the browser shows "Done" and "Internet".

**DNS Configuration** (DNS 設定) 画面で **Test** (テスト) をクリックして、DNS に ProvisionServer エントリがあり、このエントリによって適切な Intel セットアップおよび設定用サーバー (SCS) への接続が解決されていることを確認します。

The screenshot shows the Altiris Console 6.5 web interface in Internet Explorer. The left sidebar contains a navigation tree with the following structure:

- Out of Band Management
  - Alert Standard Format Getting Started
  - Collections
  - Configuration
  - Intel® AMT Getting Started
    - Section 1. Provisioning
      - Basic Provisioning (without TLS)
        - Step 1. Configure DNS**
        - Step 2. Discover Capabilities
        - Step 3. View Intel® AMT Capable Computers
        - Step 4. Create Profile
        - Step 5. Generate Security Keys
        - Step 6. Configure Automatic Profile Assignments
        - Step 7. Monitor Provisioning Process
        - Step 8. Monitor Profile Assignments
      - Enable Security (TLS)
    - Section 2. Intel® AMT Tasks
    - Reports
    - Tasks

The main content area is titled "DNS Configuration" and contains the following text:

Intel® AMT device setup and configuration requires the presence of a Domain Name System (DNS) Server. The DNS must have information for two entities:

- The computer running Intel® SCS Server must be registered in the DNS
- A configured, operational Intel® AMT device must be registered within DNS

**Intel® SCS**

The Notification Server with Out of Band Management Solution installed (with i.e. Intel® SCS Server is running on this computer) must be registered in the DNS as "ProvisionServer". This must be done in each DNS Domain. When it sends its "Hello" message, the Intel® AMT device first uses the domain name received from the DHCP server. If there is more than one SCS in the domain, the DNS will alternate between the servers. If there are multiple SCS instances or the server platform has a different name, then CNAME records need to be added to the DNS.

Click on the Test button below to verify that DNS has the "ProvisionServer" entry and that it resolves to the correct Intel® SCS Server.

**Test**

Resolved "ProvisionServer" IP:  
Resolved Intel® SCS IP:

**Intel® AMT Devices**

Ensure that the DNS is configured with the Fully Qualified Domain Names (FQDN) of the Intel® AMT-enabled machines that are being configured.

Intel® AMT devices must be configured to have the same FQDN as the host OS. This stems from the fact the Intel® AMT device is not a secure DNS client and it relies on the host OS to maintain the DNS record. For this reason, the Intel® AMT device snoops the DHCP requests and responses issued by the host OS. The Intel® AMT device then uses the IP provided by the DHCP to the host OS as its own.

When the host OS is down, the Intel® AMT device requests DNS registration of its configured FQDN from the DHCP (option 81). This works only if the DNS and DHCP are

以上により、ProvisionServer と Intel SCS の IP アドレスが表示されます。

Altiris Console 6.5 - Windows Internet Explorer

http://altirisbox.tvrpro.local/Altiris/Console/Default.aspx?ConsoleGuid=3faa8b67-250b-42ad-8186-fe2f49a9e707&ViewGuid=...

altiris console altirisbox.tvrpro.local - TRVPRO\Administrator

Home View Manage Tools Reports Configure Help

Out of Band Management

- Alert Standard Format Getting Started
- Collections
- Configuration
- Intel® AMT Getting Started
  - Section 1. Provisioning
    - Basic Provisioning (without TLS)
      - Step 1. Configure DNS**
      - Step 2. Discover Capabilities
      - Step 3. View Intel® AMT Capable Computers
      - Step 4. Create Profile
      - Step 5. Generate Security Keys
      - Step 6. Configure Automatic Profile Assignments
      - Step 7. Monitor Provisioning Process
      - Step 8. Monitor Profile Assignments
    - Enable Security (TLS)
  - Section 2. Intel® AMT Tasks
  - Reports
  - Tasks

Favorites

- My Favorites
- Altiris Console Home

## DNS Configuration

Intel® AMT device setup and configuration requires the presence of a Domain Name System (DNS) Server. The DNS must have information for two entities:

- The computer running Intel® SCS Server must be registered in the DNS
- A configured, operational Intel® AMT device must be registered within DNS

### Intel® SCS

The Notification Server with Out of Band Management Solution installed (with i.e. Intel® SCS Server is running on this computer) must be registered in the DNS as "ProvisionServer". This must be done in each DNS Domain. When it sends its "Hello" message, the Intel® AMT device first uses the domain name received from the DHCP server. If there is more than one SCS in the domain, the DNS will alternate between the servers. If there are multiple SCS instances or the server platform has a different name, then CNAME records need to be added to the DNS.

Click on the Test button below to verify that DNS has the "ProvisionServer" entry and that it resolves to the correct Intel® SCS Server.

**Test**

Resolved "ProvisionServer" IP: 192.168.20.10  
Resolved Intel® SCS IP: 192.168.20.10

### Intel® AMT Devices

Ensure that the DNS is configured with the Fully Qualified Domain Names (FQDN) of the Intel® AMT-enabled machines that are being configured.

Intel® AMT devices must be configured to have the same FQDN as the host OS. This stems from the fact the Intel® AMT device is not a secure DNS client and it relies on the host OS to maintain the DNS record. For this reason, the Intel® AMT device snoops the DHCP requests and responses issued by the host OS. The Intel® AMT device then uses the IP provided by the DHCP to the host OS as its own.

When the host OS is down, the Intel® AMT device requests DNS registration of its configured FQDN from the DHCP (option 81). This works only if the DNS and DHCP are

Done

Step 2. Discovery Capabilities (手順2. 検出機能) を選択します。

Altiris Console 6.5 - Windows Internet Explorer

http://altirisbox.tvrpro.local/Altiris/Console/Default.aspx?ConsoleGuid=3faa8b67-250b-42ad-8186-fe2f49a9e707&ViewGuid=...

altiris console altirisbox.tvrpro.local - TRVPRO\Administrator

Home View Manage Tools Reports Configure Help

Out of Band Management

- Alert Standard Format Getting Started
- Collections
- Configuration
- Intel® AMT Getting Started
  - Section 1. Provisioning
    - Basic Provisioning (without TLS)
      - Step 1. Configure DNS**
      - Step 2. Discover Capabilities
      - Step 3. View Intel® AMT Capable Computers
      - Step 4. Create Profile
      - Step 5. Generate Security Keys
      - Step 6. Configure Automatic Profile Assignments
      - Step 7. Monitor Provisioning Process
      - Step 8. Monitor Profile Assignments
    - Enable Security (TLS)
  - Section 2. Intel® AMT Tasks
  - Reports
  - Tasks

Favorites

- My Favorites
  - Altiris Console Home

Done

## DNS Configuration

Intel® AMT device setup and configuration requires the presence of a Domain Name System (DNS) Server. The DNS must have information for two entities:

- The computer running Intel® SCS Server must be registered in the DNS
- A configured, operational Intel® AMT device must be registered within DNS

### Intel® SCS

The Notification Server with Out of Band Management Solution installed (with i.e. Intel® SCS Server is running on this computer) must be registered in the DNS as "ProvisionServer". This must be done in each DNS Domain. When it sends its "Hello" message, the Intel® AMT device first uses the domain name received from the DHCP server. If there is more than one SCS in the domain, the DNS will alternate between the servers. If there are multiple SCS instances or the server platform has a different name, then CNAME records need to be added to the DNS.

Click on the Test button below to verify that DNS has the "ProvisionServer" entry and that it resolves to the correct Intel® SCS Server.

Resolved "ProvisionServer" IP: 192.168.20.10  
Resolved Intel® SCS IP: 192.168.20.10

### Intel® AMT Devices

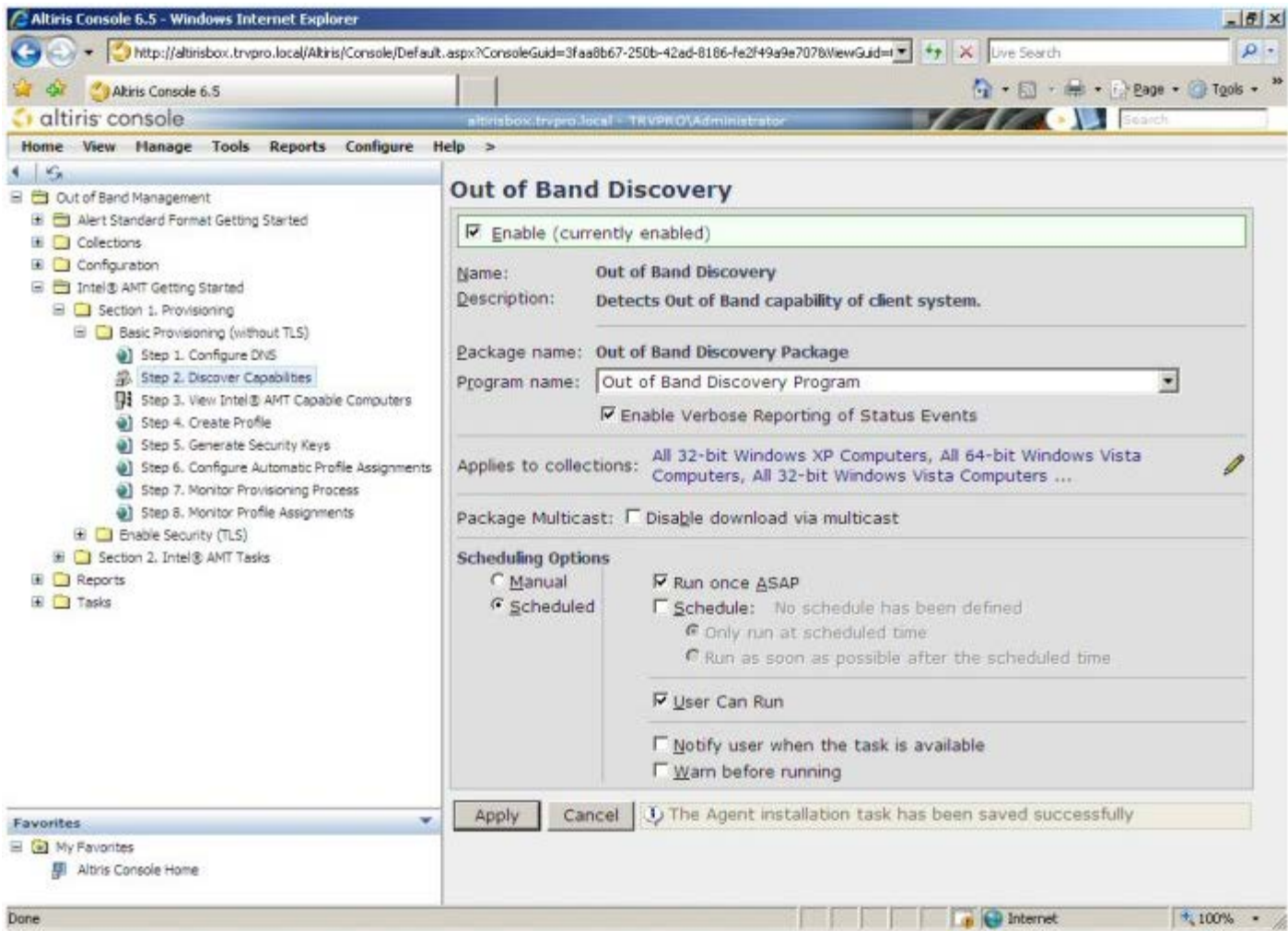
Ensure that the DNS is configured with the Fully Qualified Domain Names (FQDN) of the Intel® AMT-enabled machines that are being configured.

Intel® AMT devices must be configured to have the same FQDN as the host OS. This stems from the fact the Intel® AMT device is not a secure DNS client and it relies on the host OS to maintain the DNS record. For this reason, the Intel® AMT device snoops the DHCP requests and responses issued by the host OS. The Intel® AMT device then uses the IP provided by the DHCP to the host OS as its own.

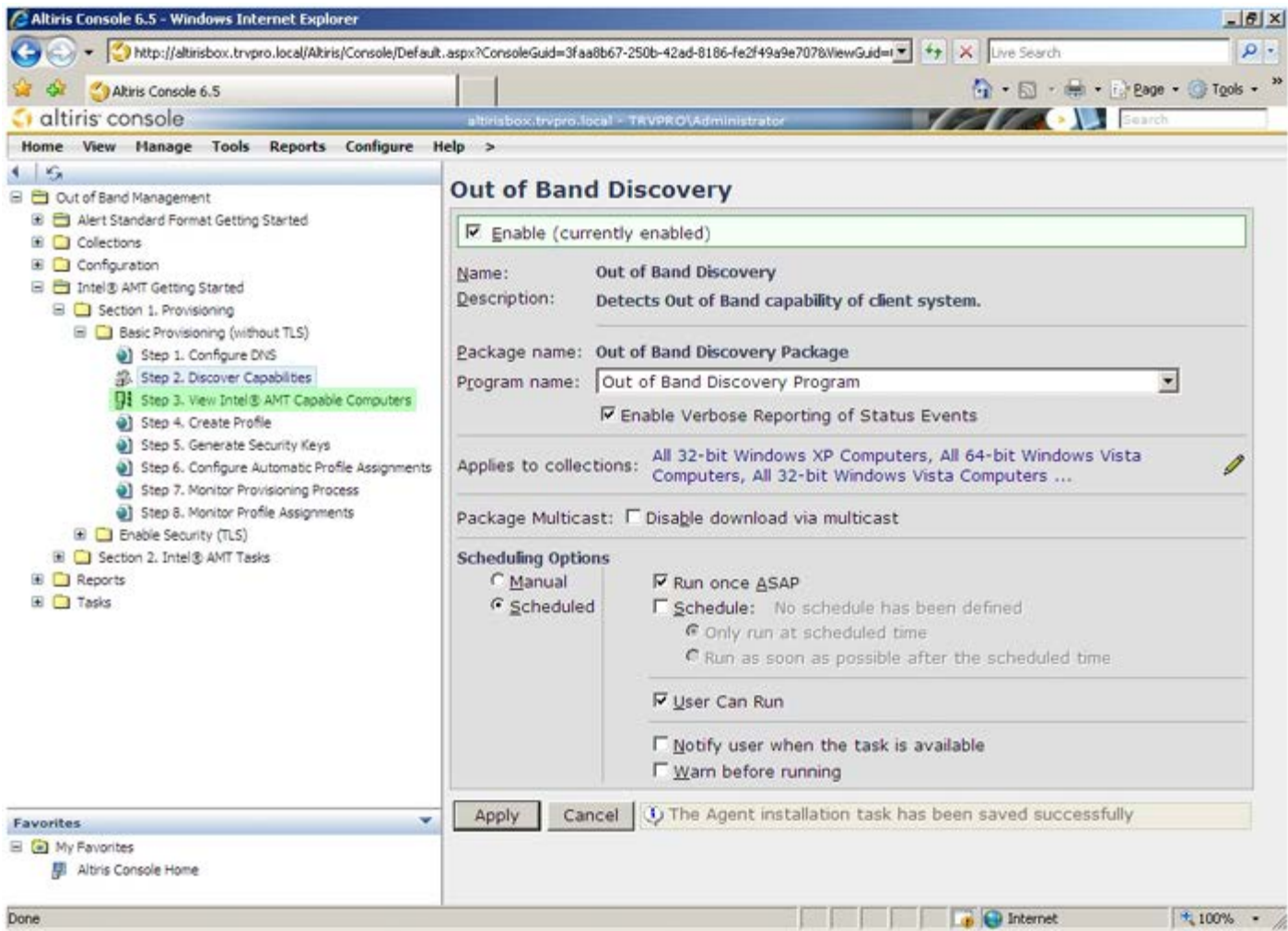
When the host OS is down, the Intel® AMT device requests DNS registration of its configured FQDN from the DHCP (option 81). This works only if the DNS and DHCP are

設定が **Enabled** (有効) になっていることを確認します。**Disabled** (無効) の場合は、**Disabled** (無効) の横のチェックボックスをクリックして **Apply** (適用) をクリックします。

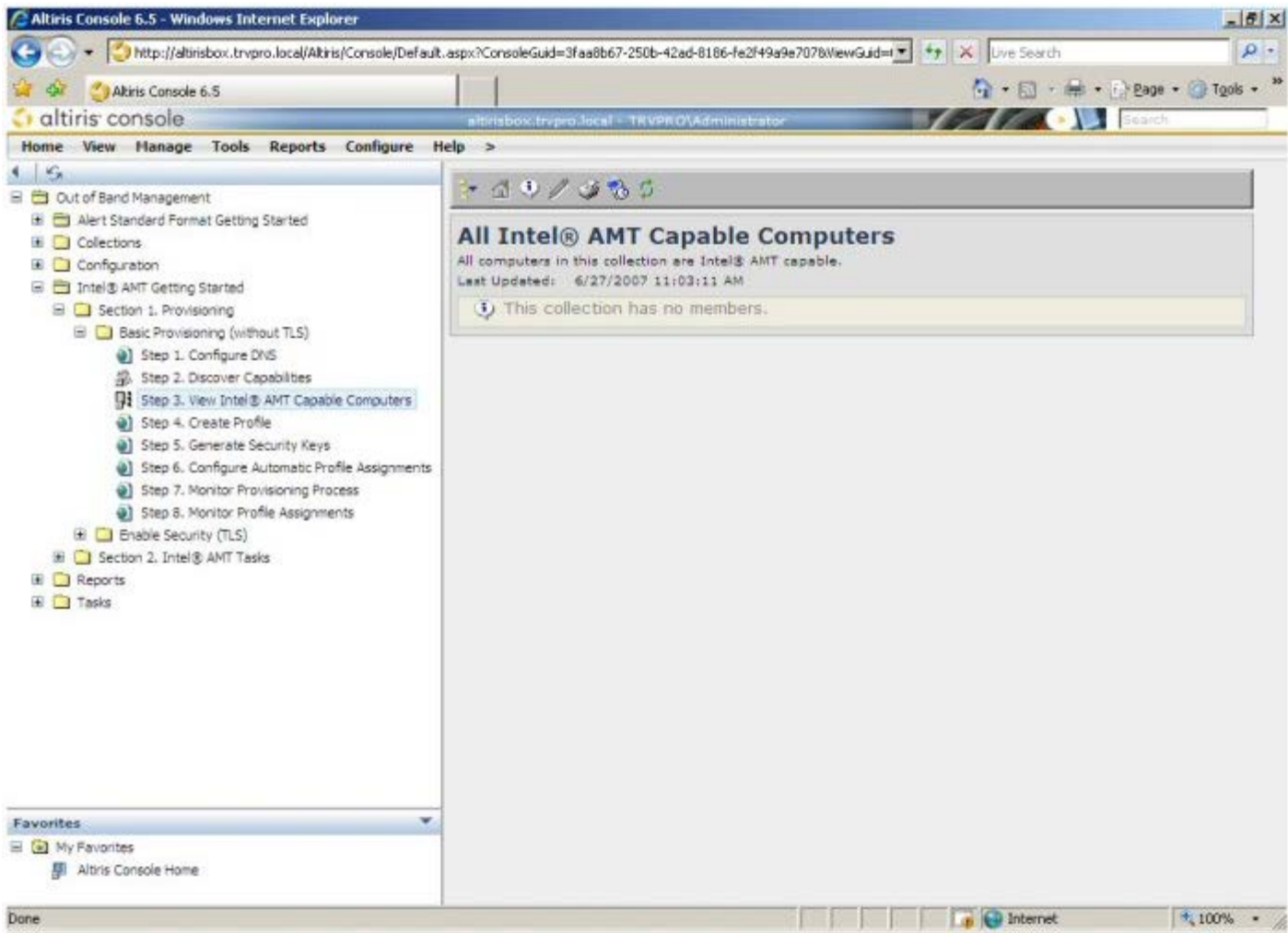




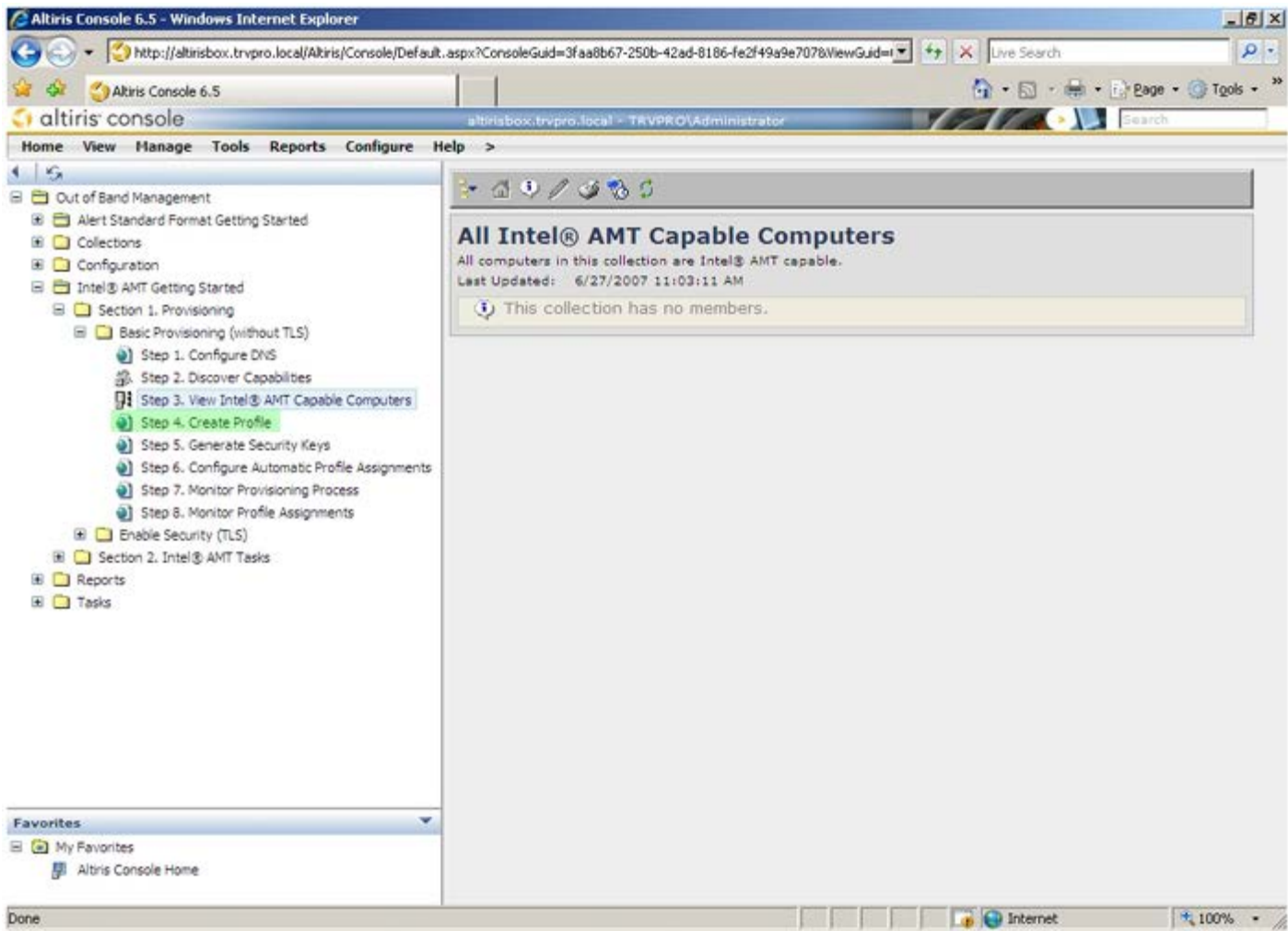
Step 3. View Intel AMT Capable Computers (手順3. Intel AMT 対応コンピュータの表示) を選択します。



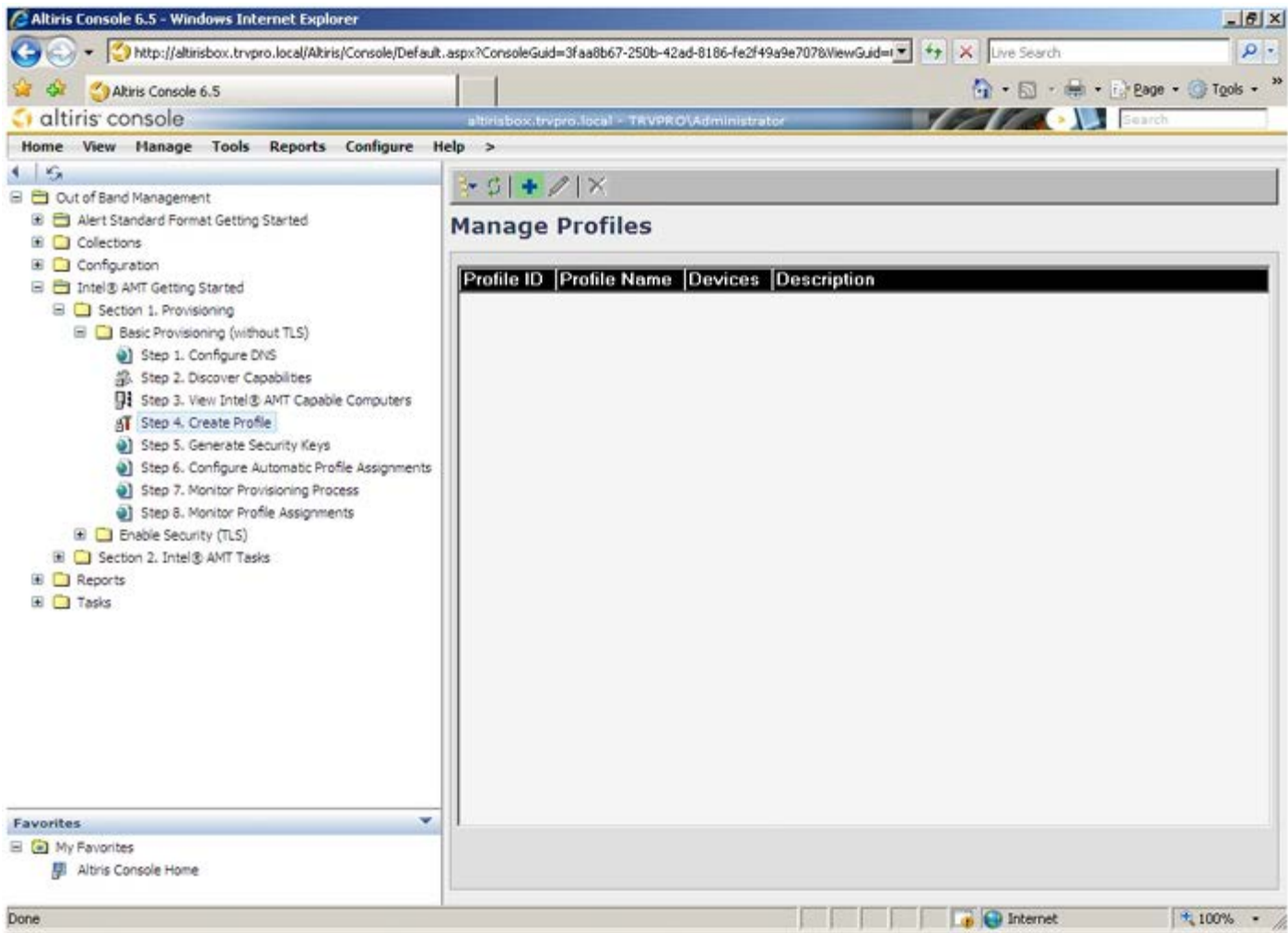
ネットワーク上の Intel AMT 対応コンピュータがリストに表示されます。



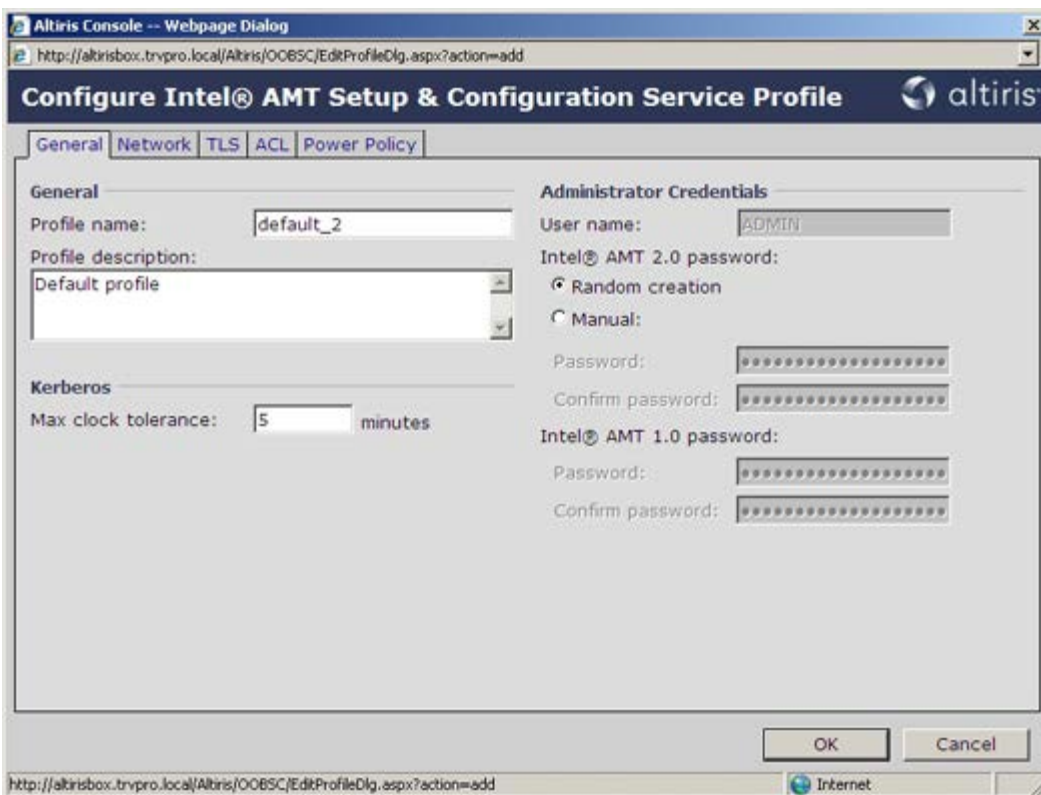
Step 4. Create Profile (手順4. プロファイルの作成) を選択します。



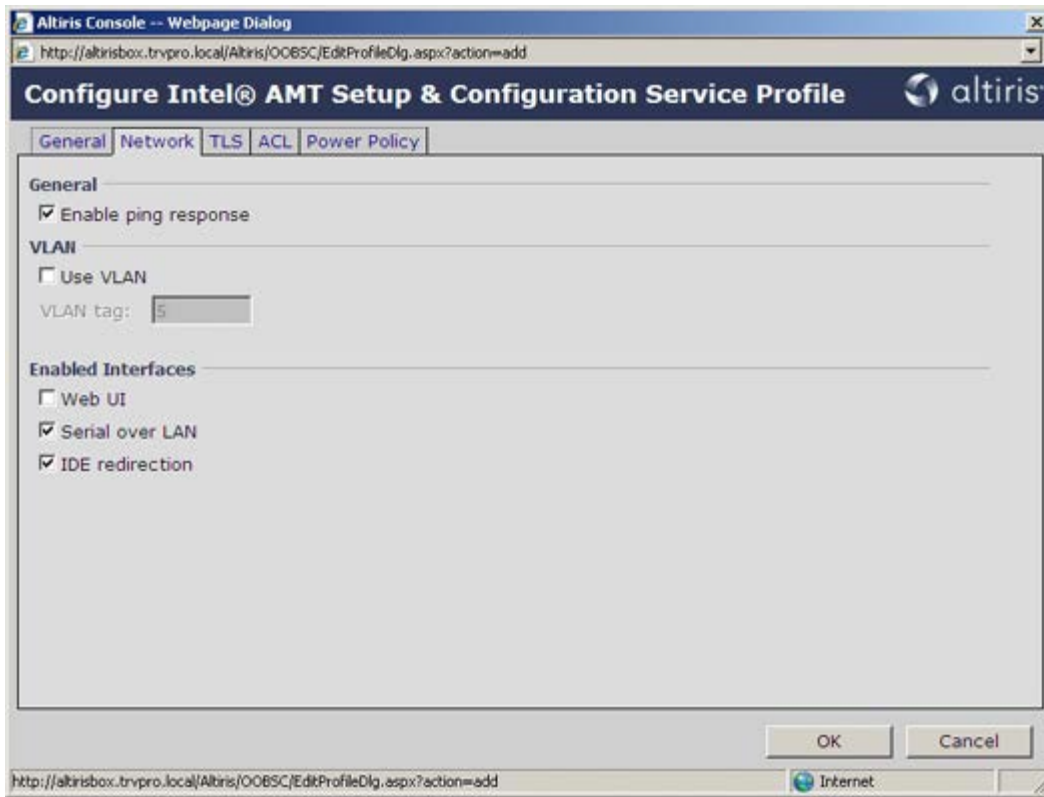
プラス記号をクリックして新しいプロファイルを追加します。



**General** (全般) タブで、管理者はプロファイル名と説明、およびパスワードを変更できます。管理者は、今後の保守を容易にするため、標準的なパスワードを設定します。**manual** (手動) ラジオボタンを選択して、新しいパスワードを入力します。



**Network**（ネットワーク）タブには、Ping への応答、VLAN、WebUI、Serial over LAN（シリアルオーバー LAN）、および IDE Redirection（IDE リダイレクション）を有効にするオプションがあります。Intel AMT を手動で設定する場合、すべての設定値は MEBx でも使用できます。

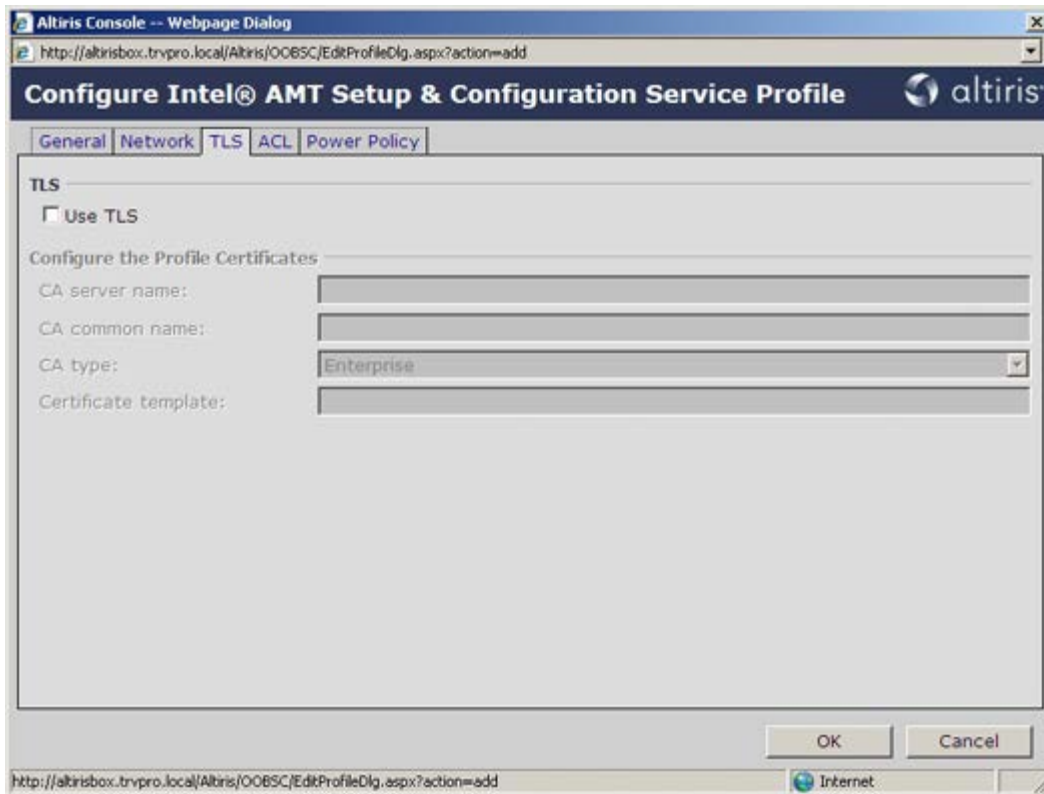


The screenshot shows a web browser window titled "Altiris Console -- Webpage Dialog" with the URL "http://altirisbox.trvpro.local/Altiris/OOBSC/EditProfileDlg.aspx?action=add". The main content area is titled "Configure Intel® AMT Setup & Configuration Service Profile" and features the Altiris logo. Below the title are tabs for "General", "Network", "TLS", "ACL", and "Power Policy". The "Network" tab is selected, showing the following settings:

- General**
  - Enable ping response
- VLAN**
  - Use VLAN
  - VLAN tag:
- Enabled Interfaces**
  - Web UI
  - Serial over LAN
  - IDE redirection

At the bottom of the dialog are "OK" and "Cancel" buttons. The browser's status bar shows "Internet".

**TLS**（Transport Layer Security（トランスポート層セキュリティ））タブには、TLS を有効にする機能があります。この機能が有効な場合、その他の情報（認証機関（CA）サーバー名、CA 共通名、CA の種類、証明書テンプレートなど）が必要となります。

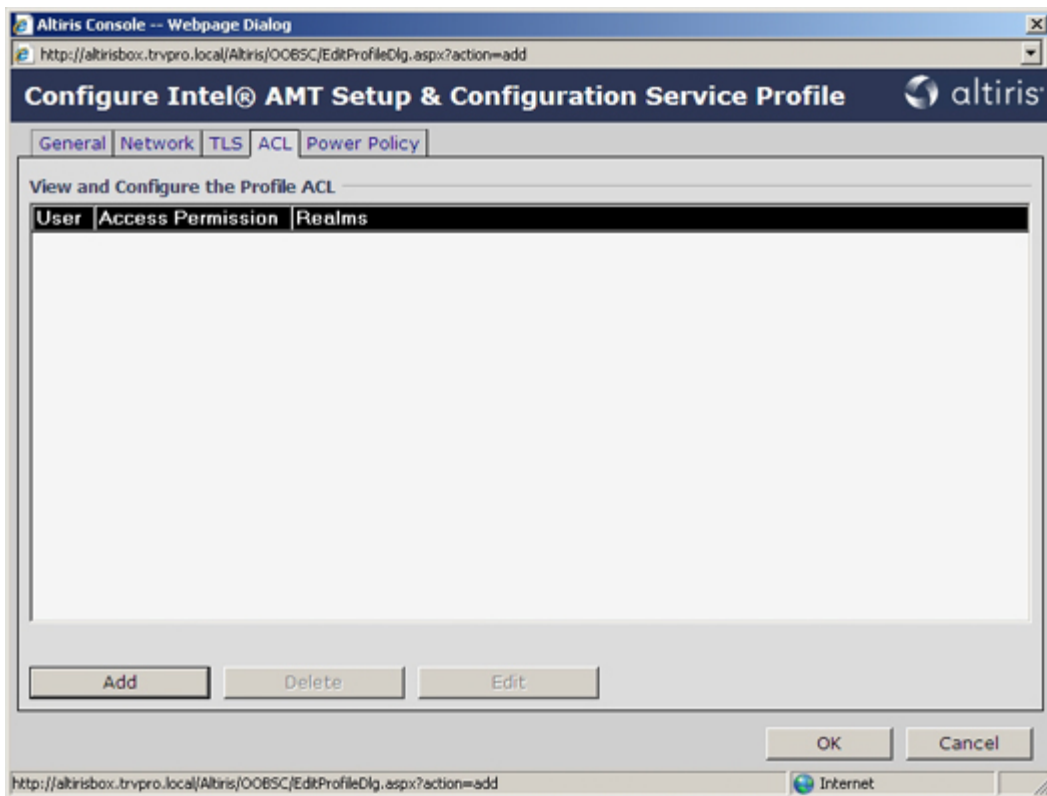


The screenshot shows the same web browser window as above, but with the "TLS" tab selected. The settings are as follows:

- TLS**
  - Use TLS
- Configure the Profile Certificates**
  - CA server name:
  - CA common name:
  - CA type:
  - Certificate template:

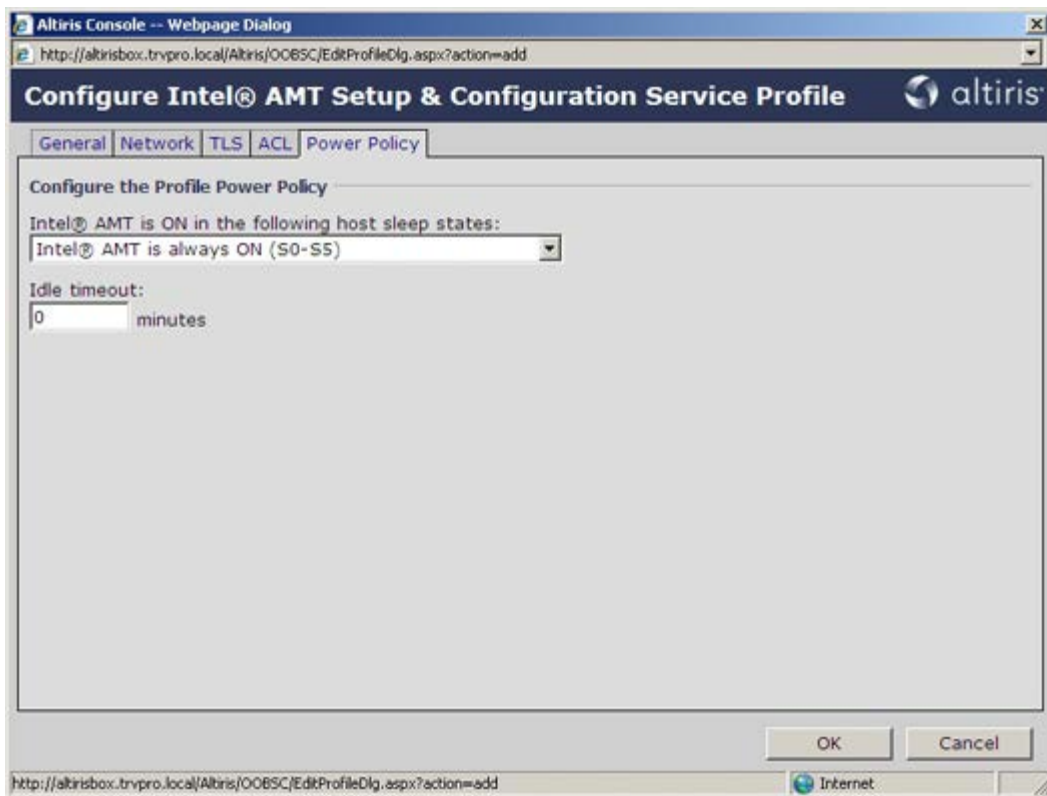
At the bottom of the dialog are "OK" and "Cancel" buttons. The browser's status bar shows "Internet".

**ACL**（アクセスコントロールリスト）タブは、すでにこのプロファイルと関連付けられているユーザーを表示したり、新しいユーザーを追加してアクセス権を定義する際に使用します。



**Power Policy**（電源ポリシー）タブには、Intel AMT のスリープ状態や **Idle Timeout**（アイドルタイムアウト）設定を選択するための設定オプションがあります。最適な性能を確保するため、アイドルタイムアウトを常に 0 に設定することをお勧めします。

**Power Policy**（電源ポリシー）タブの設定値は、E-Star 4.0 への準拠の維持に影響を与える場合があります。



**Step 5. Generate Security Keys**（手順5. セキュリティキーの生成）を選択します。

The screenshot shows the Altiris Console 6.5 interface. The left sidebar contains a tree view with the following structure:

- Out of Band Management
  - Alert Standard Format Getting Started
  - Collections
  - Configuration
  - Intel® AMT Getting Started
    - Section 1. Provisioning
      - Basic Provisioning (without TLS)
        - Step 1. Configure DNS
        - Step 2. Discover Capabilities
        - Step 3. View Intel® AMT Capable Computers
        - Step 4. Create Profile
        - Step 5. Generate Security Keys
        - Step 6. Configure Automatic Profile Assignments
        - Step 7. Monitor Provisioning Process
        - Step 8. Monitor Profile Assignments
      - Enable Security (TLS)
    - Section 2. Intel® AMT Tasks
  - Reports
  - Tasks

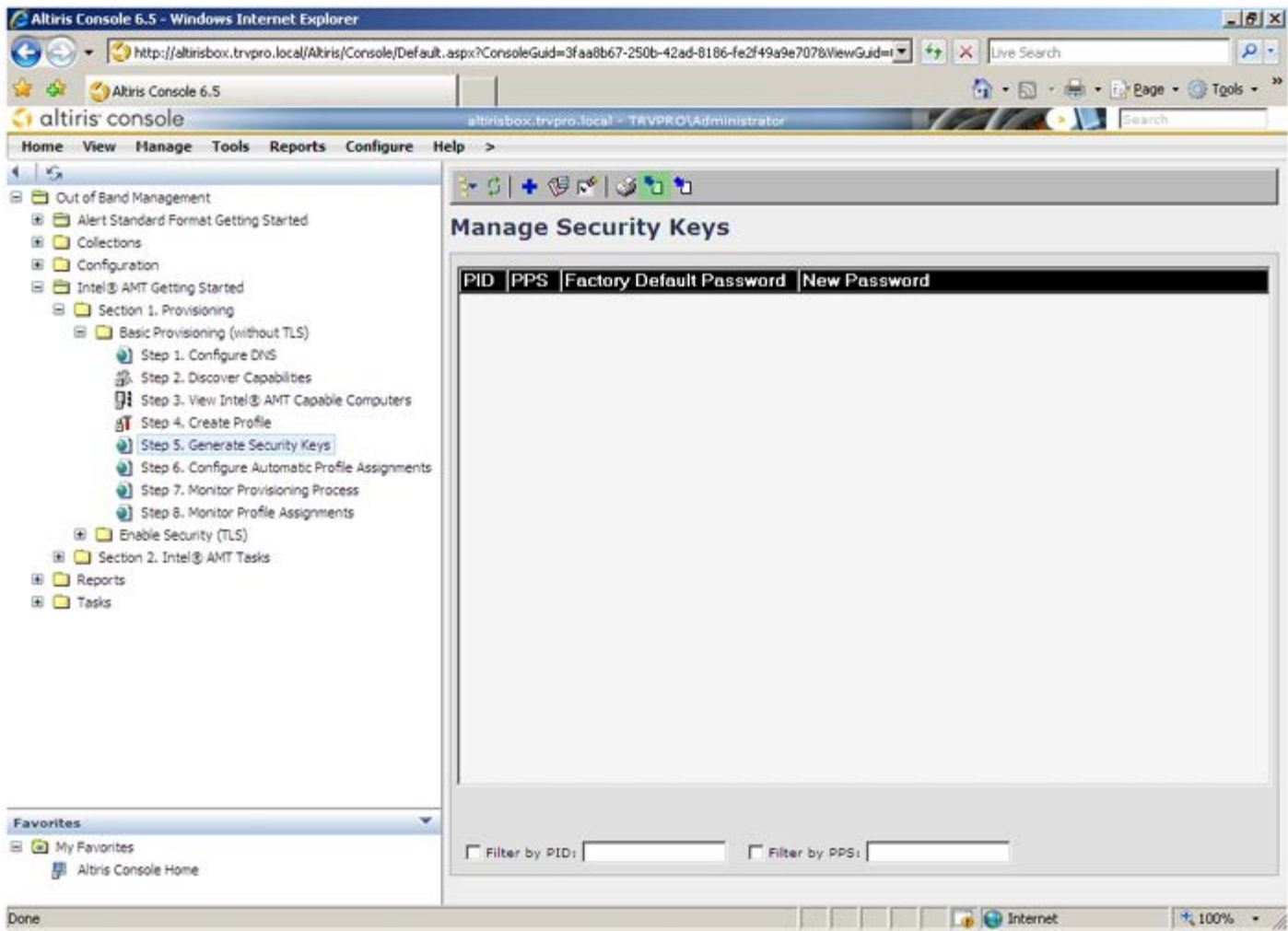
The main content area is titled "Manage Profiles" and contains a table with the following data:

Profile ID	Profile Name	Devices	Description
3	default_3	0	Default profile

At the bottom of the table area, there is a pagination control showing "Rows: 1 to 1 of 1" and "Page: 1 of 1". A "Rows per page" dropdown menu is set to "All".

Export Security Keys to USB Key (セキュリティキーを USB キーにエクスポート) を指す矢印の付いたアイコンを選択します。





Generate keys before export (エクスポート前にキーを生成) ラジオボタンを選択します。



生成するキーの数を入力します（キーの数は設定が必要なコンピュータの台数によって異なります）。デフォルト値は 50 です。

Altiris Console -- Webpage Dialog  
http://akrisbox.trvpro.local/Altiris/OC65C/SecurityMEBxSettingsPage.aspx?selected=&op=export

### Export Security Keys to USB Key

altiris

Export keys

All  
 Only selected  
 Generate keys before export:

Generate Security Keys

Number of security keys to generate: 50

Factory Default Intel® Management Engine Password

Intel® ME Password: admin

New Intel® Management Engine Password

This password is either uploaded from USB key or typed in manually into the Management Engine BIOS Extension screen.

Intel® ME Password: Dell123!

Export Result

To create and download USB key file, first configure settings and click Generate file, and then click Download USB key file. Place downloaded file to the USB Storage Device.

Available: No data exported yet [Generate](#) [Close](#)

http://akrisbox.trvpro.local/Altiris/OC65C/SecurityMEBxSettingsPage.aspx: Internet

Intel ME のデフォルトのパスワードは **admin** です。環境に応じて新しい Intel ME パスワードを設定します。

Altiris Console -- Webpage Dialog  
http://akrisbox.trvpro.local/Altiris/OC65C/SecurityMEBxSettingsPage.aspx?selected=&op=export

### Export Security Keys to USB Key

altiris

Export keys

All  
 Only selected  
 Generate keys before export:

Generate Security Keys

Number of security keys to generate: 50

Factory Default Intel® Management Engine Password

Intel® ME Password: admin

New Intel® Management Engine Password

This password is either uploaded from USB key or typed in manually into the Management Engine BIOS Extension screen.

Intel® ME Password: Dell123!

Export Result

To create and download USB key file, first configure settings and click Generate file, and then click Download USB key file. Place downloaded file to the USB Storage Device.

Available: No data exported yet [Generate](#) [Close](#)

http://akrisbox.trvpro.local/Altiris/OC65C/SecurityMEBxSettingsPage.aspx: Internet

**Generate**（生成）をクリックします。キーが作成されると、**Generate**（生成）ボタンの左側にリンクが表示されます。



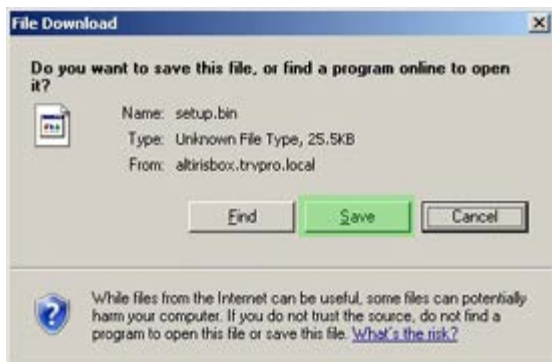
あらかじめフォーマットした USB デバイスをプロビジョニングサーバーの USB コネクタに挿入します。

**Download USB key file** (USB キーファイルのダウンロード) リンクをクリックして、USB デバイ스에 setup.bin ファイルをダウンロードします。デフォルトでは、USB デバイスが認識され、ファイルが USB デバイ스에保存されます。

今後更にキーが必要になった場合、USB デバイスを再フォーマットしてから setup.bin ファイルを保存する必要があります。



□□□ **File Download** (ファイルのダウンロード) ダイアログボックスで **Save** (保存) をクリックします。



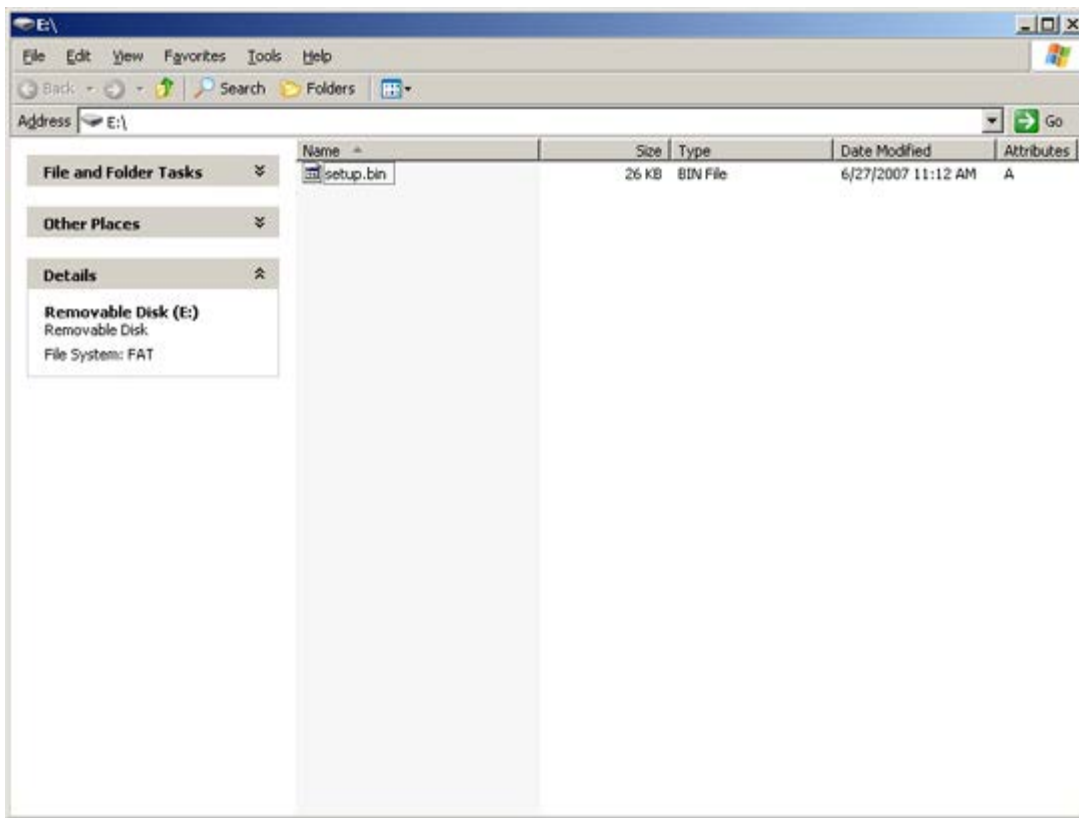
□□□ **Save in:** (保存先) が USB デバイスに指定されていることを確認します。 **Save** (保存) をクリックします。



□□□ **Download complete** (ダウンロードの完了) ダイアログボックスで **Close** (閉じる) をクリックします。



ドライブのエクスプローラウィンドウには **setup.bin** ファイルが表示されます。



**Export Security Keys to USB Key**（セキュリティキーを USB キーにエクスポート）とドライブのエクスプローラウィンドウを閉じて、Altiris Console に戻ります。

USB デバイスをコンピュータに挿入して、コンピュータの電源を入れます。すぐに USB デバイスが認識され、以下のプロンプトが表示されます。

Continue with Auto Provisioning (Y/N)（自動設定を続行しますか (Y/N)）

<y> を押します。

```
Intel(R) Management Engine BIOS Extension
Copyright(C) 2003-07 Intel Corporation. All Rights Reserved.

Found USB Key for provisioning Intel(R) AMT
Continue with Auto Provisioning (Y/N)
```

Press any key to continue with system boot...（システムの起動を続行するには任意のキーを押します。）

```
Intel(R) Management Engine BIOS Extension  
Copyright(C) 2003-07 Intel Corporation. All Rights Reserved.
```

```
Found USB Key for provisioning Intel(R) AMT  
Continue with Auto Provisioning (Y/N)
```

```
Intel(R) AMT Provisioning complete  
Press any key to continue with system boot...
```

```
Intel(R) Management Engine BIOS Extension  
Copyright(C) 2003-07 Intel Corporation. All Rights Reserved.
```

```
Found USB Key for provisioning Intel(R) AMT  
Continue with Auto Provisioning (Y/N)
```

```
Intel(R) AMT Provisioning complete  
Press any key to continue with system boot...  
ME-BIOS Sync - Successful
```

完了後、コンピュータの電源を切って、管理サーバーに戻ります。

**Step 6. Configure Automatic Profile Assignments** (手順6. 自動プロファイル割り当ての設定) を選択します。

The screenshot shows the Altiris Console 6.5 web interface. The left sidebar contains a navigation tree with the following structure:

- Out of Band Management
  - Alert Standard Format Getting Started
  - Collections
  - Configuration
  - Intel® AMT Getting Started
    - Section 1. Provisioning
      - Basic Provisioning (without TLS)
        - Step 1. Configure DNS
        - Step 2. Discover Capabilities
        - Step 3. View Intel® AMT Capable Computers
        - Step 4. Create Profile
        - Step 5. Generate Security Keys
        - Step 6. Configure Automatic Profile Assignments
        - Step 7. Monitor Provisioning Process
        - Step 8. Monitor Profile Assignments
      - Enable Security (TLS)
    - Section 2. Intel® AMT Tasks
  - Reports
  - Tasks

The main content area is titled "Manage Security Keys" and contains a table with the following columns:

PID	PPS	Factory Default Password	New Password
-----	-----	--------------------------	--------------

Below the table, there are two filter fields:

Filter by PID:

Filter by PPS:

設定が有効になっていることを確認します。Intel AMT 2.0+ ドロップダウンで、事前に作成されたプロファイルを選択します。環境に応じてその他の設定を行います。

The screenshot displays the Altiris Console 6.5 web interface. The left-hand navigation pane shows a tree structure under 'Intel AMT Getting Started' > 'Section 1. Provisioning' > 'Basic Provisioning (without TLS)'. 'Step 7. Monitor Provisioning Process' is highlighted. The main content area is titled 'Resource Synchronization' and includes the following elements:

- Enable (currently enabled)**
- Text: "New profile assignments will be created automatically for all systems that are in unprovisioned state and have Fully Qualified Domain Name (FQDN) found in the Notification Server database based on the system UUID."
- Intel AMT 1.0 to profile:
- Intel AMT 2.0+ to profile:
- Synchronize Intel SCS and Notification Server resources**
- Remove duplicate Intel AMT resources from Notification Server database
- Enable Schedule:**   
At 2:10 AM every 1 days, starting Saturday, January 01, 2005
- Last synchronization statistics**
- Table:

Current status:	Inactive
Last Synchronized:	6/27/2007 2:10:11 AM
Total Devices:	0
Assigned resources:	0
Created resources:	0
Cleaned resources:	0
- 
- 

Step 7. Monitor Provisioning Process (手順7. プロビジョニングプロセスのモニタ) を選択します。



The screenshot displays the Altiris Console 6.5 web interface in Internet Explorer. The left sidebar shows a navigation tree with 'Section 7. Monitor Provisioning Process' highlighted. The main content area is titled 'Resource Synchronization' and contains the following settings:

- Enable (currently enabled)**
- New profile assignments will be created automatically for all systems that are in unprovisioned state and have Fully Qualified Domain Name (FQDN) found in the Notification Server database based on the system UUID.
- Intel® AMT 1.0 to profile:
- Intel® AMT 2.0+ to profile:
- Synchronize Intel® SCS and Notification Server resources**
- Remove duplicate Intel® AMT resources from Notification Server database
- Enable Schedule:**   
At 2:10 AM every 1 days, starting Saturday, January 01, 2005
- Last synchronization statistics**
- Current status: Inactive
- Last Synchronized: 6/27/2007 2:10:11 AM
- Total Devices: 0
- Assigned resources: 0
- Created resources: 0
- Cleaned resources: 0
- 
- 

キーが適用されたコンピュータがシステムリストに表示されます。最初のうちは、ステータスは **Unprovisioned** (プロビジョン解除) で、その後 **In provisioning** (プロビジョン中) に変わり、プロセス終了時には **Provisioned** (プロビジョン済み) となります。

The screenshot shows the Altiris Console 6.5 interface in a Windows Internet Explorer browser. The left sidebar contains a navigation tree with the following structure:

- Out of Band Management
  - Alert Standard Format Getting Started
  - Collections
  - Configuration
  - Intel® AMT Getting Started
    - Section 1. Provisioning
      - Basic Provisioning (without TLS)
        - Step 1. Configure DNS
        - Step 2. Discover Capabilities
        - Step 3. View Intel® AMT Capable Computers
        - Step 4. Create Profile
        - Step 5. Generate Security Keys
        - Step 6. Configure Automatic Profile Assignments
        - Step 7. Monitor Provisioning Process
        - Step 8. Monitor Profile Assignments
      - Enable Security (TLS)
    - Section 2. Intel® AMT Tasks
    - Reports
    - Tasks

The main content area is titled "Intel® AMT Systems" and displays a table with the following columns: UUID, FQDN, Status, Provision Date, Version, and Profile. The table is currently empty. Below the table, there are several filter options:

- By version: Ver10
- By status: InProvisioning
- Records: All
- By profile name: default\_3
- By UUID:
- From date: 6/27/2006 12:00:00 AM
- Order by: UUID
- direction: Ascending

Step 8. Monitor Profile Assignments (手順8. プロファイル割り当てのモニタ) を選択します。

The screenshot shows the Altiris Console 6.5 interface. The left sidebar contains a tree view with the following structure:

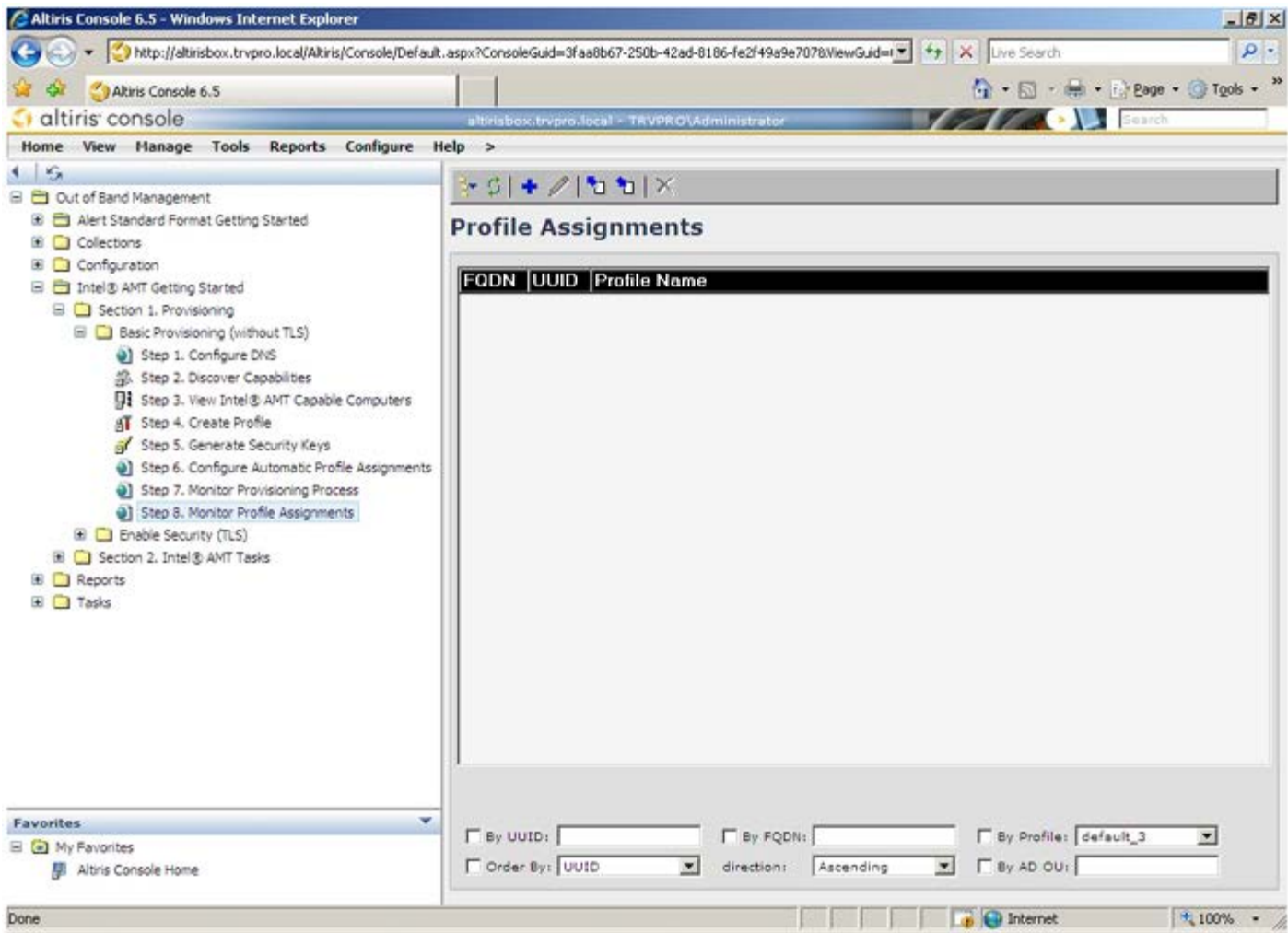
- Out of Band Management
  - Alert Standard Format Getting Started
  - Collections
  - Configuration
  - Intel® AMT Getting Started
    - Section 1. Provisioning
      - Basic Provisioning (without TLS)
        - Step 1. Configure DNS
        - Step 2. Discover Capabilities
        - Step 3. View Intel® AMT Capable Computers
        - Step 4. Create Profile
        - Step 5. Generate Security Keys
        - Step 6. Configure Automatic Profile Assignments
        - Step 7. Monitor Provisioning Process
        - Step 8. Monitor Profile Assignments (highlighted)
      - Enable Security (TLS)
    - Section 2. Intel® AMT Tasks
    - Reports
    - Tasks

The main content area is titled "Intel® AMT Systems" and contains a table with the following columns: UUID, FQDN, Status, Provision Date, Version, Profile. The table is currently empty.

Below the table, there are filter options:

- By version: Ver10
- By status: InProvisioning
- Records: All
- By profile name: default\_3
- By UUID:
- From date: 6/27/2006 12:00:00 AM
- Order by: UUID
- direction: Ascending

プロファイルが割り当てられたコンピュータがリストに表示されます。各コンピュータは FQDN、UUID、および Profile Name（プロファイル名）の列で識別されます。



コンピュータはプロビジョン後、**All configured Intel AMT computers**（設定済みの全 Intel AMT コンピュータ）の **Collections**（コレクション）フォルダに表示されます。

Altiris Console 6.5 - Windows Internet Explorer

http://altirisbox.trvpro.local/Altiris/Console/Default.aspx?ConsoleGuid=3fas8b67-250b-42ad-8186-fe2f49a9e707&ViewGuid=

Altiris Console 6.5

altiris console altirisbox.trvpro.local - TRVPRO\Administrator

Home View Manage Tools Reports Configure Help >

- Out of Band Management
  - Alert Standard Format Getting Started
  - Collections
    - All Broadcom ASF capable computers
    - All configured Intel® AMT computers
    - All Intel® AMT capable computers
  - Provisioning
- Configuration
- Intel® AMT Getting Started
- Reports
- Tasks

**All Configured Intel® AMT Computers**

All computers in this collection are configured Intel® AMT computers.  
Last Updated: 7/11/2007 11:57:16 AM

This collection has no members.

Favorites

- My Favorites
  - Altiris Console Home

Done Internet 100%

[目次に戻る](#)